

仙台市文化財調査報告書第121集

仙台市文化財分布調査報告 VI

七北田川下流域の板碑

1988年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第121集

仙台市文化財分布調査報告 VI

七北田川下流域の板碑

1988年3月

仙台市教育委員会

## 序 文

仙台市教育委員会では貴重な文化財を正しく後世に伝えるため、市内に所在する様々な文化財について分布調査を行っております。本報告書は昭和59年、昭和60年に岩切東光寺周辺の板碑調査に引続いて、昭和62年度に行なった七北田川下流域周辺の板碑調査の成果をまとめたものです。

板碑（古碑）は年代的には鎌倉期から室町期の約300年間にわたり盛んに造立された石造の卒塔婆で、碑面の形式は、上部に種子を記し、その下に年号・供養文が記された供養塔婆と、現世安穏と後世善処を祈願して建立した逆修塔婆があり、当時の地方における信仰の状況が窺えるほか、南北朝動乱期における政治・社会状況、また、当時路傍に建てられたといわれる碑の跡や分布状況を辿ることにより当時の交通や集落の拡がりなども類推することができます。市内においてもっとも板碑が集中する岩切から七北田川下流域にかけての地域は古代から中世にかけて国府多賀城に抜ける交通の要衝として発展を遂げた地域であり、東北の中世史を研究するうえで特に重要な地域となっており、板碑の分布はこれを如実に裏付ける史料ということもできるでしょう。

いずれにしろ、板碑は文献史料が乏しい中世史を明らかにしていく上で、貴重な同時代の文字史料といえ、今回の調査が一般市民はもとより多くの研究者の方々に活用されれば幸いに存じます。

末筆ながら調査に当たられた「宮城いしぶみ会」の石黒伸一朗氏、調査に快く協力いただいた所有者、関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

昭和63年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤井

黎

## 目 次

序 文	
目 次	
例 言	
1. はじめに	1
2. 板碑の記載	1
3. おわりに	14
七北田川下流域板碑一覧表	16
図 版 (2~18)	20
写 真 (1~92)	41

## 例 言

1. 本報告書は仙台市教育委員会が、宮城いしぶみ会員石黒伸一郎氏に昭和62年度依頼した七北田川下流域板碑の分布調査報告書である。
2. 本調査は仙台市東光寺板碑群の分布調査（昭和59・60年度実施）に引き続き、行ったもので、仙台市内でも特に板碑が分布する七北田川下流域の岩切・高砂・中野地区についてはほとんど網羅できたものと考える。
3. 本書の執筆、拓本採集、図面作成、写真撮影等は石黒伸一郎氏が担当した。
4. 板碑分布図は仙台市都市計画図を使用した。
5. 図表等の数値は全てセンチメートルで表示した。
6. 梵字は発音をカタカナで表示した。
7. 昭和62年度県道拡幅に伴う発掘調査においても板碑が発見されており、仙台市文化財調査報告書第112集「東光寺遺跡発掘調査報告書」を参照していただきたい。

## 1 はじめに

七北田川は泉ヶ岳に源を発し、仙台市根白石・七北田・岩切や多賀城市新田などを経て、仙台市蒲生で仙台湾に注いでおり、全長は約40kmある。七北田川は別に冠川とも呼ばれていた。現在の河口は蒲生であるが寛文以前は宮城郡七ヶ浜町湊浜付近であった（文献1）。湊浜の湊薬師には中世の石窟仏がある（文献2・3）。

七北田川の下流域は仙台市および多賀城市内において最も多くの板碑がみられるところで、その分布の中心は仙台市岩切の東光寺である。仙台市教育委員会では岩切城に関する調査の一環として昭和59・60年に調査を宮城いしづみ会に依頼して東光寺板碑群の調査を行った。その結果、東光寺の境内から70基の板碑と五輪塔1基、東光寺の周辺から14基の板碑を確認した（文献4）。また、東光寺門前の県道拡幅工事に伴う事前調査では10基の板碑が出土した（文献5）。

今回の板碑分布調査は岩切の南、JR東北新幹線と七北田川の交わる地点から河口までの左岸および右岸とも約2kmを調査範囲とした。対象とした主な地区は仙台市田子・福田町・岡田・福室・中野・蒲生、多賀城市新田・南宮・山王・高橋などである。これらの地域の板碑調査はこれまでに、三塚源五郎氏（文献6・7）・松本源吉氏（文献8）・菊池武一氏（文献9・10）・鈴木清藏氏（文献11）や多賀城市史編纂にともなう調査（文献12）などがあるが、その中で最もまとまっているものは昭和16年の松本源吉氏による『陸前宮城郡の古碑』である。それには七北田川下流域の有紀年号板碑と無紀年号板碑あわせて39基を略図入りで報告している。今回の調査ではそれらの板碑を再確認するとともに、主として神社仏閣や古い墓地などを分布調査し未報告の板碑を探索した。しかし、松本氏が報告した板碑のなかには確認できなかったものも数基あり、それらは最後にまとめた。

調査方法は実測図（スケール1/10）、拓本、写真撮影、特徴などを記録した。調査範囲以外であるが岩切地区において新たに発見された板碑なども紹介したい。

## 2 板碑の記載

### （1）仙台市田子字五平淵（分布図15）

県道今市福田線ぞいに15基ほどの石碑群があり、そのなかに2基の板碑がある。この石碑群は付近からあつめられたもので、板碑も現在地より西方にあったといわれる。向かって左側のものを1号碑、右側のものを2号碑とする。

〔1号碑〕 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高63cm、幅51cm、厚さ14cmを計る。

碑面は若干磨かれている。上部に種子「ア」を浅く薬研彫りする。彫刻方法は粗い敲打である。現在は裏面に向いている。(第2図2・写真-1)

〔2号碑〕 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高75cm、幅68cm、厚さ34cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「バン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面には享保年間の追刻がある。(第2図3・写真-2)

#### (2) 仙台市福田町1丁目10-20 霊洞院境内 (分布図17)

靈洞院本堂の西側、墓地への通路にある。安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高123cm、幅52cm、厚さ21cmを計る。左側面は破損している。碑面は若干磨かれている。上部に種子「キリーク」を浅く皿彫りする。彫刻方法は敲打の後に磨いている。板碑の後に碑面は近世に墓標として利用され、さらにその文字は後世に削り取られているので碑面は非常に荒れている。裏面は明治3年に「金剛山」と彫られており、現在こちら側が正面になっている。(第2図1・写真-3・4)

#### (3) 仙台市福田町2丁目10-9 四野観音堂境内 (分布図18)

四野観音堂の前には数基の石碑が並んでおり、その中に庚申塔に利用されている板碑が1基ある。安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高120cm、幅99cm、厚さ28cmを計る。碑面の調整はない。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。銘文は「弘安九年二月」、その左右に「因歳」「丙戌」とある。この板碑は岩切より南では最古である。裏面は宝永2年の庚申塔で、現在はこちらが正面になっている。(第3図3・写真-5・6)

#### (4) 仙台市福室字鶴巻一番地 熊野神社境内 (分布図19)

安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高114cm、幅80cm、厚さ24cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「バーン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面には延宝3年の追刻がある。種子は一応「バーン」と読んでおくが実際にはこのような梵字は存在しないようである。類例としては多賀城市市川字大畑にある無紀年号板碑にみられる(文献8)。(第2図4・写真-7)

#### (5) 仙台市福室字久保野一番72番地 住吉神社境内 (分布図20)

本殿の南側に4基の石碑が並んでおり、その中に1基の板碑がある。砂岩の礫を素材のまま使用しており、地上高100cm、幅60cm、厚さ54cmを計る。上部に種子「アーク」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の下に「乾元二年八月十四日」と紀年号がある。碑面はかな

り風化しており碑面調整はわからない。(第3図2・写真-8)

#### (6) 仙台市岡田寺袋浦 神明社本尊(分布図21)

神明社の本尊として3基の板碑が祠られている。向かって左から1号碑～3号碑とする。

〔1号碑〕 砂岩の円礫を使用しており、高さ69cm、幅45cm、厚さ18cmを計る。碑面は若干磨いて調整している。上部に種子「ア」を浅く彫りする。彫刻方法は敲打の後に磨いている。

「ア」のまわりには下書きの線が観察できる。(第3図1・写真-9)

〔2号碑〕 砂岩の円礫を大きく剥離して使用しており、地上高90cm、幅57cm、厚さ13cmを計る。碑面はかなり風化しており碑面調整は不明である。上部に種子「バ」を大きく薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。(第4図1・写真-10)

〔3号碑〕 砂岩の剥離した石材を使用しており、地上高83cm、幅34cm、厚さ15cmを計る。左側面は大きく破損しており、碑面も剥落が激しい。碑面調整は不明である。上部に種子「アン」を薬研彫りする。(第4図2・写真-11)

#### (7) 多賀城市新田字西後46-4 不動明王堂(分布図22)

不動明王堂の本尊に2基の板碑が祠られている。安永3年の『宮城郡新田村風土記御用書出』の不動堂の条には「一本尊 石佛ニ梵字有之候斗外本尊無御座候事」とあり(文献13)、この板碑を指しているものと思われる。向かって左側のものを1号碑、右側のものを2号碑とする。

〔1号碑〕 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高62cm、幅55cm、厚さ34cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「キリーグ」を薬研彫りし、その下に「文保園」と紀年号を小さく彫る。(第4図3・写真-12)

〔2号碑〕 砂岩の礫を使用しており、地上高109cm、幅84cm、厚さ42cmを計る。右側面を大きな剥離で整形している。碑面調整はない。上部に種子「バク」を薬研彫りする。(第4図4・写真-13)

#### (8) 多賀城市新田字北安楽寺 七北田川旧堤防(分布図23)

七北田川の旧堤防の東斜面にある。大きく二つに割れており、古くから「割石の碑」と呼ばれている。左側は立っているが右側は倒れている。安山岩の剥離した石材を使用しており、左側は地上高144cm、幅93cm、厚さ52cmを計り、右側は高さ170cm、幅61cm、厚さ34cmを計る。碑面は磨かれており、周辺は小さな剥離で整形されている。上部に種子「キリーグ」を大きく薬研彫りする。種子の彫刻方法は底線にたいして直角方向のノミ痕と敲打によるノミ痕と2種類がみられ、さらに部分的に磨かれている。底線は深く彫り込まれて溝状を呈している。種子の

下に「元應元年四月十七日」と紀年号がある。碑面には貞享2年の追刻がある。右側には「キリーグ」の涅槃点の一部がみられる。(第6図1・写真-14~17)

#### (9) 多賀城市新田字北安楽寺 七北田川新堤防 (分布図24)

「割石の碑」より30mほど南の新しい堤防上にある。この板碑については安永3年に書かれた『宮城郡新田村風土記御用書出』に「一古碑 竪七尺五寸 橫四尺六寸 右ハ割石と申石ニ御座候由年久敷川中ニ埋候候處名石と申鳴候間村之者共街道江引上指置申候上ニ梵字一ヶ有之正和元年八月十九日と年月相記候處何之碑と申義相知不申候右正和元年ハ人王九十四代 花園院御宇年號ニ而當安永三年迄四百五拾三年ニ罷成候事」とあり(文献13)、古くは七北田川の中にあったようである。この板碑を「割石」としているのはすぐ近くにある元應元年の板碑ととりちがえているからである。また、文政5年(1822)に舟山万年が著した『塙松勝譜』には「新田碑 今市港ノ東南ヲ新田村ト為ス。村中ニ碑有リ。高七尺横四尺六寸。額ニ梵文ヲ彫ル。其下ニ記スル所ノ文字残缺セリ。其中正和元年八月十九日等。僅カニ讀ム可シ。而シテ其書古雅愛ス可シ。」とみえる(文献14)。

安山岩の非常に大きな礫を素材のまま使用しており、地上高153cm、幅125cm、厚さ56cmを計る。右側面は火熱を受けており剥落が激しい。碑面調整はなく自然面である。上部に種子「ア」を大きく薬研彫りする。彫幅は9.5cmと広く、彫刻方法は敲打である。種子のまわりには散華が彫られている。種子の下には「正和元年八月十九日」と紀年号があり、その下に4行にわたって「四十八目・念佛結衆・已上六十・八人散白」と造立趣旨がある。これによれば48日間の念佛を行うために集まった68人の講集団によって立てられた結衆板碑であることがうかがえられる。二ヶ所に彫られている「日」は「日」の間違いであろう。種子を直接散華で装飾した板碑は全国的にみても非常に少なく、類例としては埼玉県羽生市の清淨院にある建長6年板碑にみられる(文献15)。(第6図2・写真-18~20)

#### (10) 多賀城市新田字南安楽寺46番地 南安楽寺板碑群 (分布図25)

南安楽寺板碑群には8基の板碑があり、ほかに江戸時代の墓標や庚申塔などもある。ここに板碑群の原位置は七北田川の河原であったが、河川改修の時に現在地に移されたようである(文献12)。地元の人々はここを「おかねだから」と呼んでおり、それはおそらく庚申塔に由来するものと思われる(文献16)。便宜上1~8号碑とする。

【1号碑】 安山岩の非常に大きな礫を剥離して長方形に整形している。碑面は剥離面のままでは調整などはない。地上高170cm、幅62cm、厚さ65cmを計り、この板碑群の中で最も大きい板碑である。上部に種子「アン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。下部に「延慶三年八

月廿六日」と紀年号がある。(第5図1・写真-21・22)

〔2号碑〕 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高82cm、幅56cm、厚さ28cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。(第5図2・写真-23)

〔3号碑〕 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高84cm、幅58cm、厚さ23cmを計る。碑面調整はない。左側面は大きく破損している。上部に種子「キリーク」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の下には「永仁三年六月十八日」と紀年号があり、その両側に「光明遍照・十方世界・念佛衆生・攝取不捨」と『仏説觀無量寿經』の偈頌がある。碑面は風化している。裏面は元禄14年の庚申供養塔に利用されており、現在この面が表になっている。(第5図3・写真-24)

〔4号碑〕 砂岩の剥離した石材を使用しており、地上高78cm、幅37cm、厚さ31cmを計る。頂部と左側面は破損している。碑面調整はない。上部に種子「キリーク」を薬研彫りする。彫刻方法は風化のためにわからない。種子の下には「永仁六年八月・彼岸・第七番」とある。(第7図1・写真-25)

〔5号碑〕 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高79cm、幅52cm、厚さ22cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「キリーク」を薬研彫りする。彫刻方法は風化しているのでわからない。「キリーク」は特殊な書体である。種子の下には「正和元年壬子六月廿九日」と紀年号があり、その両側に「敬・白」とある。(第7図2・写真-26)

〔6号碑〕 砂岩の円礫の四面を剥離して柱状に加工して使用している。地上高93cm、幅43cm、厚さ30cmを計る。碑面は剥離面のままで調整などはない。上部に種子「キリーク」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。中央には4行にわたって「光明遍照・十方世界・念佛衆生・攝取不捨」と『仏説觀無量寿經』の偈頌がある。その下には「正應三年二月・彼岸・オニ」とあり、その両側に「已上往来・四十二人數白」とある。(第7図3・写真-27・28)

〔7号碑〕 安山岩の円礫を大きく剥離して使用しており、地上高68cm、幅56cm、厚さ13cmを計る。碑面は剥離面のままで碑面調整はない。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。(第7図4・写真-29)

〔8号碑〕 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高64cm、幅57cm、厚さ12cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「キリーク」を浅く薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の下に「正應三年庚寅八月十九日」と紀年号がある。(第8図1・写真-30)

#### (11) 多賀城市新田字南安楽寺97番地 阿弥陀堂境内 (分布図26)

阿弥陀堂の右側にある。花崗岩の円礫を使用しており、地上高83cm、幅48cm、厚さ21cmを計

る。碑面は自然面のままで調整はない。上部に種子「バ？」を浅く薬研彫りする。彫刻方法は粗い敲打である。種子の下に「正應元年七月」と紀年号がある。(第8図2・写真-31~33)

(12) 多賀城市新田字南間合23-1 渡辺義一氏宅内 (分布図27)

砂岩の礫を使用しており、地上高154cm、幅69cm、厚さ30cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。下部は大きく剥落している。(第8図3・写真-34)

(13) 多賀城市新田字南間合33番地 冠川神社境内 (分布図28)

冠川神社本殿の左側にある。向かって左側を1号碑、右側を2号碑とする。

[1号碑] 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高45cm、幅33cm、厚さ10cmを計る。上部に種子「カ」を浅く薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面調整はなく、全体的に風化している。(第8図4・写真-35)

[2号碑] 砂岩の円礫を剥離して使用しており、地上高50cm、幅47cm、厚さ13cmを計る。中央に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は風化しているのでわからない。碑面の左側のみ磨いた痕跡がある。1号碑と同じように全体的に風化している。(第9図1・写真-36)

(14) 多賀城市南宮宇色の地197番地 南宮神社境内 (分布図29)

本殿の西側に石仏とともにコンクリートで固定されている。安山岩の円礫を素材のまま使用しており、地上高35cm、幅27cm、厚さ15cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「バン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。(第9図2・写真-37)

(15) 多賀城市南宮宇町13番地 慈雲寺境内 (分布図30)

山門の東側に数基の石碑があり、その中に2基の板碑がある。その内の永仁2年の結衆板碑は古くから知られており『塩松勝譜』の慈雲寺の項には「寺前ニ一古碑有リ。從四尺餘一尺餘。文字剥落十二シテ五六ヲ讀ム可シ。而シテ書法古雅。近世流俗ノ書ニ比スルニ。固ヨリ大ニ類セス。」とあり(文献14)、寛政12年(1800)に松平定信が編んだ『集古十種』(文献17)には図がみられる(第1図)。また、文化7年(1810)に吉田友好が著した『仙台金石志』にも簡単な記述がある(文献18)。永仁2年のものを1号碑、その左方にある板碑を2号碑とする。

[1号碑] 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高89cm、幅74cm、厚さ14cmを計る。頂部は破損している。碑面は若干磨いて調整している。上部に種子「アク」を円相の中に浅く

薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の下には「永仁二年甲午八月・彼岸・二番」と紀年号があり、その両側に「四十八日別時衆・三十五人敬白」とある。碑面全体に苔が付着しており銘文は分かりにくい。裏面は宝曆3年の戒壇石になっている。(第9図3・写真-38~40)

[2号碑] 安山岩の礫を素材の

まま使用しており、地上高124cm、幅87cm、厚さ24cmを計る。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法はわからない。碑面は踏石などに使われていたらしく非常に摩滅している。裏面は寛文6年に「同各同號阿弥陀佛」と彫られており、現在この面が表になっている。碑面はコンクリート塀に密着しているので調査しにくい。(第9図4・写真-41)

(16) 多賀城市山王宇東町浦31-5 日吉神社境内 (分布図31)

JR東北本線の山王駅近くに日吉神社があり、境内に4基の板碑が並んでいる。向かって左から1号碑~4号碑とする。

[1号碑] 多孔質の黒い安山岩を素材のまま使用しており、地上高92cm、幅126cm、厚さ38cmを計る。全体的に風化が激しく碑面調整はわからない。上部に種子「アン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。(第10図1・写真-42)

[2号碑] 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高101cm、幅69cm、厚さ38cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面は後世に墓標に利用され、さらに天明5年には庚申塔に転用されているので種子は非常にわかりにくい。(第10図2・写真-43・44)

[3号碑] 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高80cm、幅52cm、厚さ32cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「ア」を浅く薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面は明和4年に庚申供養塔に利用されており、2号碑と同じように種子は非常にわかりにくい。全体的に風化している。(第9図5・写真-45・46)

[4号碑] 安山岩の円礫を使用しており、地上高64cm、幅51cm、厚さ21cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「バン」を皿彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面はかなり風化している。(第10図3・写真-47)



第1図 陸奥国宮城郡南宮村慈雲寺碑(『集古十種』)

(17) 多賀城市山王宇山王二区183-1 山王遺跡出土（分布図32）

昭和60年に山王遺跡のS D 0 5という溝状遺構から出土した。小さな破片で種子の一部しかわからない。横14.5cm、縦11.4cm、厚さ4cmを計る。涅槃点で見るかぎり薬研彫りで、彫刻方法は敲打である。砂岩を使用しており、後世に砥石として利用されている可能性が強いとして報告されている（文献19）。（第10図4・写真-48）

(18) 多賀城市高橋字発向121番地 大日靈神社境内（分布図33）

大日靈神社はほかに大日如来堂とも呼ばれている。境内には4基の板碑があり、本殿の前にある板碑を向かって左から1号碑～3号碑、本殿の中にある板碑を4号碑とする。

〔1号碑〕 安山岩の礫を素材のまま使用しており、地上高106cm、幅121cm、厚さ30cmを計る。全体に三角形を呈している。碑面調整はない。中央に種子「アク」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打であるが、そのあと部分的に磨いている。「アク」の下半分はバランスが悪い。（第11図4・写真-49）

〔2号碑〕 安山岩の礫を使用しており、地上高46cm、幅49cm、厚さ13cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「キリーク」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。（第11図1・写真-50）

〔3号碑〕 安山岩の礫を使用しており、地上高64cm、幅30cm、厚さ46cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「カン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の左側には溝状の穴があるが、人工か自然のものなのか不明である。碑面は風化している。（第11図2・写真-51）

〔4号碑〕 安山岩の円礫を使用しており、地上高64cm、幅47cm、厚さ21cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「パン」を薬研彫りする。彫刻方法は礫打である。（第11図3・写真-52）

(19) 仙台市福室字新堀東70番地 西光寺境内（分布図34）

西光寺の山門の東側に2基の板碑がある。向かって左側のものを1号碑、右側の板碑を2号碑とする。2号碑は正應2年の紀年号がみられるが「正平七年」の追刻があり「正平親王の碑」として有名である。古くから知られているが江戸時代の文献で正確な記載がみられるのは『仙台金石志』（文献18）のみで、『宮城郡北福室村風土記御用書出』（文献20）や『封内風土記』（文献21）には追刻の記述しかない。

〔1号碑〕 砂岩の礫を使用しており、地上高88cm、幅45cm、厚さ31cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子は非常にはっきりしている。中央より下に延宝3年の「南無阿弥陀佛」と追刻がある。（第11図5・写真-53）

〔2号碑〕 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高117cm、幅79cm、厚さ16cmを計る。碑面は部分的に磨いて調整している。上部に「ア・バ・ラ・カ・キャ」の五大種子を薬研彫り

する。彫刻方法は敲打である。種子の読み方は中心にあるアから右のバへ行き、そこから左まわりにラ・カ・キヤと読んでいく。中央には『仏説觀無量寿經』の偈頌が「光明遍照・十方世界・念……」と3行だけ残る。その下中央には「正應二年七月廿日」と紀年号がある。紀年号の両側には「右志者為……」「過去□靈也」とある。碑面の下半分は剥落した部分が多く銘文にはわからないところがある。「カ」の下には「正平七年」の追刻がみられる。(第12図1・写真-54~56)

(20) 仙台市福室字庚1-3 結城庄之進氏宅 (分布図35)

結城庄之進氏宅の南側、道路の突き当りにある。砂岩の礫を素材のまま使用しており、地上高116cm、幅73cm、厚さ19cmを計る。碑面調整はみられない。碑面は大きく湾曲している。上部に種子「キリーク」を箱彫りする。彫刻方法は敲打である。裏面は寛文8年の庚申塔に利用されている。(第13図1・写真-57)

(21) 仙台市中野字阿弥陀堂37番地 詔渡寺境内 (分布図36)

詔渡寺境内の無縁供養塔の中にいる。砂岩の礫を使用しており、高さ84cm、幅39cm、厚さ22cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「バン」を丸彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の下には「応永廿三丙申十月日」の紀年号がある。(第12図2・写真-58)

(22) 仙台市中野字出花西 愛宕神社境内 (分布図37)

国道45号線沿いにある愛宕神社の境内には多くの板碑が付近から集められている。本殿の向かって左側にある板碑を1号碑~4号碑、右側にあるものを5・6号碑とする。

〔1号碑〕 砂岩の円礫を使用しており、高さ80cm、幅55cm、厚さ12cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「キリーク」を薬研彫りするがバランスは悪い。彫刻方法は敲打である。種子の右下には「願以此功德・普及於一切・我等與衆生・皆共成佛道」と『化城喻品第七』の偈頌がある。その左には「右志者為慈父・往生極楽・永仁三年十月日・百ヶ日敬白」とある。偈頌の第1行日の前には「願子等」とみられる。(第12図3・写真-59・60)

〔2号碑〕 安山岩の礫を使用しており、地上高93cm、幅68cm、厚さ20cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「バン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面はかなり風化している。(第12図4・写真-61)

〔3号碑〕 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高66cm、幅49cm、厚さ29cmを計る。碑面はツルツルに磨かれている。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。(第13図2・写真-62)

〔4号碑〕 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高73cm、幅79cm、厚さ15cmを計る。碑面調整の有無はわからない。中央に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面には凹凸があり、さらに風化しているので種子はわかりにくい。裏面は安永4年の庚申塔に利用されており、現在この面が表になっている。(第13図3・写真-63)

〔5号碑〕 砂岩の礫を素材のまま使用しており、地上高142cm、幅53cm、厚さ24cmを計る。上部に種子「バン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打で、その後に磨いている。碑面には江戸時代と思われる「右意趣者」などの追刻がある。碑面は部分的に磨かれているが追刻時のようにある。(第13図4・写真-64)

〔6号碑〕 砂岩の剥離した石材を使用しており、地上高145cm、幅87cm、厚さ25cmを計る。碑面調整はみられない。上部に種子「バン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。5号碑と同じような「右意趣者」などの追刻があり、5号碑と6号碑は石材として付近から持ってきていた可能性がある。(第14図2・写真-65)

#### (23) 仙台市中野字只屋敷55-5 古澤輝男氏宅内 (分布図38)

古澤輝男氏宅の西側に2基の板碑が廻らされている。向かって左側の板碑を1号碑、右側の板碑を2号碑とする。

〔1号碑〕 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高121cm、幅71cm、厚さ24cmを計る。碑面は筋理面のままで調整はない。上部に「ア・サク・サ」の大日三尊の種子を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。中央に「正應六年大才三月十二日」の紀年号がある。基部は破損しているようである。(第14図3・写真-66)

〔2号碑〕 安山岩の剥離した石材を使用しており、地上高71cm、幅49cm、厚さ25cmを計る。碑面は大きく湾曲しており調整はない。上部に種子「バン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の両側には「末法万年・余縊失滅・弥陀一教・利物持僧」と『西方要決』の偈頌がある。種子の下には「延慶二年大歲辛亥三月廿日・孝子等・敬白」と紀年号があり、その両側に「竊以率都婆是大日遍照・之本地常住之妙体也爰・過去慈父幽靈七世安存・宅□□□所以来送七・ヶ年星霜春秋依之為井・正路本年□□□□如件」と長い願文がみられる。碑面が小さいので文字で埋まっている。(第14図4・写真-67)

#### (24) 仙台市中野字高柳38-5 国分秀一氏宅西北 (分布図40)

国分秀一氏宅の西北に塚があり、そこの松の下に板碑が1基ある。安山岩の礫を使用しており、地上高49cm、幅38cm、厚さ11cmを計る。碑面調整はない。中央に種子「バン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。(第14図1・写真-68)

#### (25) 仙台市中野字曲田56番地 加藤長松氏宅南側 (分布図41)

加藤長松氏宅の南側、道路の角に8基の石碑が並べられており、右端が板碑である。砂岩の礫を素材のまま使用しており、地上高124cm、幅71cm、厚さ23cmを計る。碑面は部分的に磨いて調整している。頂部は少し額状に突き出ているが自然である。上部に種子「パン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。種子の下には「□□念仏□□・因仏□ 卍八〇正和七・三十八人」と3行の銘文がある。正和の年号は6年までしかなく、7年は文保2年に当たる。(第15図1・写真-69・70)

#### (26) 仙台市中野字向田 八銀八幡神社境内 (分布図42)

八銀八幡神社の本殿前には多くの石碑がみられ、その中に板碑が1基ある。安山岩の剝離した石材を使用しており、地上高135cm、幅62cm、厚さ12cmを計る。碑面は非常に摩滅しているので調整の有無はわからない。上部に種子「キリーク」を皿彫りする。彫刻方法は底線に対して並行のノミ痕で、彫りは非常に浅い。(第15図2・写真-71)

#### (27) 仙台市蒲生字竹ノ内 耳取観音境内 (分布図43)

松本源吉氏によれば耳取観音において3基の板碑が報告されているが(文献8)、現在は1基の板碑しか見当たらない。門を入って右側にある。安山岩の剝離した石材を使用しており、地上高139cm、幅150cm、厚さ43cmを計る。上部に種子「アク」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面は宝曆5年に「青面金剛」と追刻されている。その時に銘文は削り取られており「右志者……」としか残っていない。(第15図3・写真-72)

#### (28) 仙台市岩切字羽黒前126-4 森谷 茂氏宅前出土 (分布図5)

森谷 茂氏宅の車庫の前で行われていた下水道工事現場から2基の板碑が偶然出土した。板碑に伴う遺構などは不明である。この2基の板碑は現在、東光寺裏の墓地に移転されている。  
〔1号碑〕 砂岩の礫を使用しており、高さ151cm、幅78cm、厚さ19cmを計る。頂部から右側面にかけては小さな剝離で整形しており、碑面は部分的に磨いて調整している。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は底線に対して直角方向の彫りで、その後に磨いて仕上げている。碑面には3本の割付線と思われる縦線がみられる。(第16図1・写真-73)

〔2号碑〕 砂岩の礫を使用しており、高さ168cm、幅60cm、厚さ22cmを計る。頂部は三角形に近く整形し、碑面は平滑に仕上げられている。碑面の周縁には多数のノミ痕がみられる。基部は自然のままで、碑面とは僅かに段差がある。種子は「キリーク・サク・サ」の阿弥陀三尊を薬研彫りする。彫刻方法は底線に対して並行の彫りである。中央には「正應二年 二」の紀

年号がある。「キリーク」と紀年号の間に細い縦線がみられる。また、種子の上には弧状の線が彫られている。(第16図2・写真-74~76)

#### (29) 仙台市岩切字若宮前 念仏田墓地 (分布図4)

松本源吉氏の報告によれば3基の板碑が報告されているが(文献8)、そのうちの1基は確認できたが他の2基はわからなかった。他に未報告の板碑を1基確認した。松本氏の報告にある板碑を1号碑、新しく確認した板碑を2号碑とする。

〔1号碑〕 墓地の南端にある塚状造構の上に倒れている。砂岩の剥離した石材を使用しており、高さ210cm、幅71cm、厚さ35cmを計る。碑面は剥離面のままで調整はない。上部に種子「ア」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面は元禄2年に墓標として利用されている。(第17図1・写真-77・78)

〔2号碑〕 墓地の中央からやや西よりに倒れている。砂岩の礫を使用しており、高さ138cm、幅35cm、厚さ12cmを計る。碑面調整はない。左側面は整形されている。上部に種子「ア」を彫るが、後世に種子は削り取られており底線が部分的に残っているだけなので彫刻方法はわからない。裏面は延宝6年に「南無阿弥陀佛」と彫られている。(第17図2・写真-79・80)

#### (30) 仙台市岩切字入山27-1 佐藤喜信氏宅 (分布図2)

佐藤喜信氏宅の東側に低い丘陵があり、そこに氏神様を祠っている小さな堂がある。堂の裏に4基の板碑が立てかけてあり、堂の中にも1基ある。堂の裏にある板碑を向かって左から1号碑~4号碑、中にある板碑を5号碑とする。ここに板碑の所在については森剛男氏から御教示いただいた。

〔1号碑〕 粘板岩の剥離した石材を使用しており、高さ75cm、幅22cm、厚さ10cmを計る。右側面は破損しており、碑面も剥落している部分が多い。碑面は銘文のある部分のみ磨いて調整している。上部に「ア・バ・ラ・カ・(キャ)」の五大種子を薬研彫りするが、「キャ」は欠けている。彫刻方法は風化しているのでわからない。種子の読み方は中心にあるアから下のバに行き、そこから右まわりにラ・カ・キャと読んでいく。それぞれの種子は二重の円相に入っている、それらはさらに大きな二重の円相でかこまれている。中央には「弘安…」の紀年号があり、左下には「笠上入道口也」と人名がみられる。円相の直径は大26.8cm、中11.3cm、小7.7cmである。試みに3.3cmで割ると大が約8寸、中が約3寸5分、小が2寸3分である。小のみは割り切れない。種子は曼荼羅状に配置されており、字輪曼荼羅に相当するものかもしれない。

(第18図1・写真-81~84)

〔2号碑〕 粘板岩の剥離した石材を使用しており、高さ86cm、幅24cm、厚さ11cmを計る。碑

面調整はない。上部に種子「パン」を薬研彫りする。彫刻方法はわからないが、後から彫り面を磨いて仕上げている。(第18図2・写真-85)

[3号碑] 砂岩の礫を剥離して使用しており、高さ125cm、幅20cm、厚さ20cmを計る。碑面は摩滅しているので調整はわからない。上部に種子「パン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打の後に磨いて仕上げている。中央に「永仁七年二月」と紀年号を彫る。(第18図3・写真-86・87)

[4号碑] 砂岩の剥離した石材を使用しており、高さ75cm、幅35cm、厚さ23cmを計る。碑面調整はない。上部に種子「ア」を浅く箱彫りする。彫刻方法は敲打である。全体に風化している。(第18図4・写真-88)

[5号碑] 粘板岩の剥離した石材を使用しており、高さ33cm、幅27cm、厚さ2cmを計る。下部が破損している断碑である。碑面は剥離面のままで調整はない。中央に種子「キリーク」、左下に「サク」を薬研彫りする。右下にある「サ」は欠けている。種子は阿弥陀三尊である。彫刻方法は底線に対して並行の彫りである。(第18図5・写真-89)

### —追加分—

#### (31) 仙台市田子字壇下 大日神社境内 (分布図16)

壇下10番地の伊藤音松氏宅の西北に大日神社があり、2基の板碑がみられる。御神体になっているものを1号碑、境内の右側に寛延4年の庚申塔と並んでいるものを2号碑とする。

[1号碑] 安山岩の円礫を使用しており、高さ69cm、幅33cm、厚さ15cmを計る。中央に種子「ア」を丸彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面調整などはみられない。(第18図6・写真-90)

[2号碑] 安山岩の剥離した石材を使用しており、高さ49cm、幅44cm、厚さ12cmを計る。下部は破損しており、現在は上下逆さまに立てられている。中央に種子「カーン」を薬研彫りする。彫刻方法は敲打である。碑面の周辺は剥離によって整形されており、頂部は三角形を呈する。碑面調整はなく剥離面のままである。(第18図7・写真-91)

#### (32) 仙台市中野字只屋敷156番地 古沢初男氏宅内 (分布図39)

古沢初男氏宅の西北隅に板碑が祠かれている。砂岩の礫を使用しており、地上高63cm、幅33cm、厚さ20cmを計る。上部に種子「キリーク」を浅く薬研彫りする。彫刻方法は風化のため不明である。全体に風化が激しく種子はわかりにくい。(第18図8・写真-92)

### 3 おわりに

以上で七北田川下流域の板碑56基と岩切地区において新しく確認できた板碑9基を報告した。これらの板碑についての考察は『東光寺遺跡発掘調査報告書』(文献5)に、東光寺で新たに出土した10基の板碑を報告するとともに若干の考察を加えているので参照していただきたい。今回の分布調査は現在の行政区画を無視して七北田川下流域という自然地理的な範囲を調査の対象にしたので、仙台市東部と多賀城市西部にまたがる地域の板碑を調査した。多賀城市内の板碑は28基を収録した。これによって多賀城市西部の板碑はほとんど収録したものと考えられる。最後になったが板碑の所在地については森 剛男(宮城県文化財保護指導委員)・滝口 卓(多賀城市教育委員会)の二氏に御教示いただいた。記して感謝申しあげる。

#### 『陸前宮城郡の古碑』(文献8)の中で現在確認できない板碑

No.	所 在 地	種 子	銘 文
118	高砂村福田町 田村神社脇	キリーク	無し
119	高砂村福田町横丁 山ノ神前	バン・ウーン	無し
121	高砂村中野出花 民家	ア?	無し
60	高砂村中野和田新田 耳取観音前	断碑不明	一二年丙午八月十五日
127	高砂村中野和田新田 耳取観音前	アク	無し
173	多賀城村山王裏町 日吉社前	バン	無し

### 〈引用文献〉

- 1 宮城郡湊浜風土記御用書出 安永3年8月 (『宮城県史第24巻』 314~317ページ 宮城県史刊行会 昭和29年4月)
- 2 斎藤 忠 陸前宮城郡に於ける岩窟仏に就いて 考古学雑誌20-2 70~79ページ 考古学会 昭和5年2月
- 3 佐々久 仏像影刻 『宮城県史第13巻』 1~107ページ 宮城県史刊行会 昭和55年3月
- 4 宮城いしぶみ会(編) 仙台市文化財分布調査報告N 仙台市東光寺板碑群 仙台市文化財調査報告書第93集 仙台市教育委員会 昭和61年3月
- 5 石黒伸一朗 仙台市東光寺出土の板碑と七北田川下流の板碑概観 仙台市文化財調査報告書第112集 仙台市東光寺跡発掘調査報告書 仙台市教育委員会 昭和63年3月
- 6 三塚源五郎 多賀城村の古碑について 仙台郷土研究3-7 24~27ページ 仙台郷土研究会 昭和8年7月
- 7 三塚源五郎 多賀城村の古碑について(追加) 仙台郷上研究3-9 20ページ 仙台郷上研究会 昭和8年9月
- 8 松本源吉 陸前宮城郡の古碑 『仏教考古学論叢』考古学評論第3輯 107~159ページ 東京考古学会 昭和16年5月
- 9 寿池武一 仙台の金石文 『仙台市史第5巻』 311~574ページ 仙台市役所 昭和26年12月
- 10 寿池武一 宮城県の金石文 『宮城県史第17巻』 1~246ページ 宮城県史刊行会 昭和31年2月
- 11 鈴木清藏 多賀城市内の板碑について 宮城史学8・9合併号 46~51ページ 宮城教育大学歴史研究会 昭和57年10月
- 12 佐々木光雄・和泉匡剛・伊藤 信 多賀城市内の板碑 多賀城市史編さん報告書第2集 40~53ページ 多賀城市 昭和56年8月
- 13 宮城郡新田村風土記御用書出 安永3年9月 (『宮城県史第24巻』 381~384ページ 宮城県史刊行会 昭和29年4月)
- 14 船山万年 『塩松勝譜』 文政5年 (『仙台叢書別集第4巻』 仙台叢書刊行会 大正15年7月)
- 15 枝田二三夫 建兵の板碑巡歴(7) 歴史考古学第14号 51~59ページ 歴史考古学研究会 昭和59年10月
- 16 多賀城市史編纂委員会 『多賀城市史民俗編』 多賀城市 昭和60年3月
- 17 松平定信(編) 『集古十種』 碑銘之部 寛政12年
- 18 吉田友好 『仙台金石志』 文化7年 (『仙台叢書仙台金石志上』・『同下』 仙台叢書刊行会 昭和2年6月・同2年12月)
- 19 石本 敦・相沢清利 山王遺跡-昭和60年度発掘調査報告書I- 多賀城市文化財調査報告書第9集 多賀城市教育委員会 昭和61年3月
- 20 宮城郡北福室村風土記御用書出 安永3年9月 (『宮城県史第24巻』 388~389ページ 宮城県史刊行会 昭和29年4月)
- 21 田辺希文 『封内風土記』 明和9年 (『仙台叢書封内風土記1~5』 仙台叢書刊行会 明治26年)

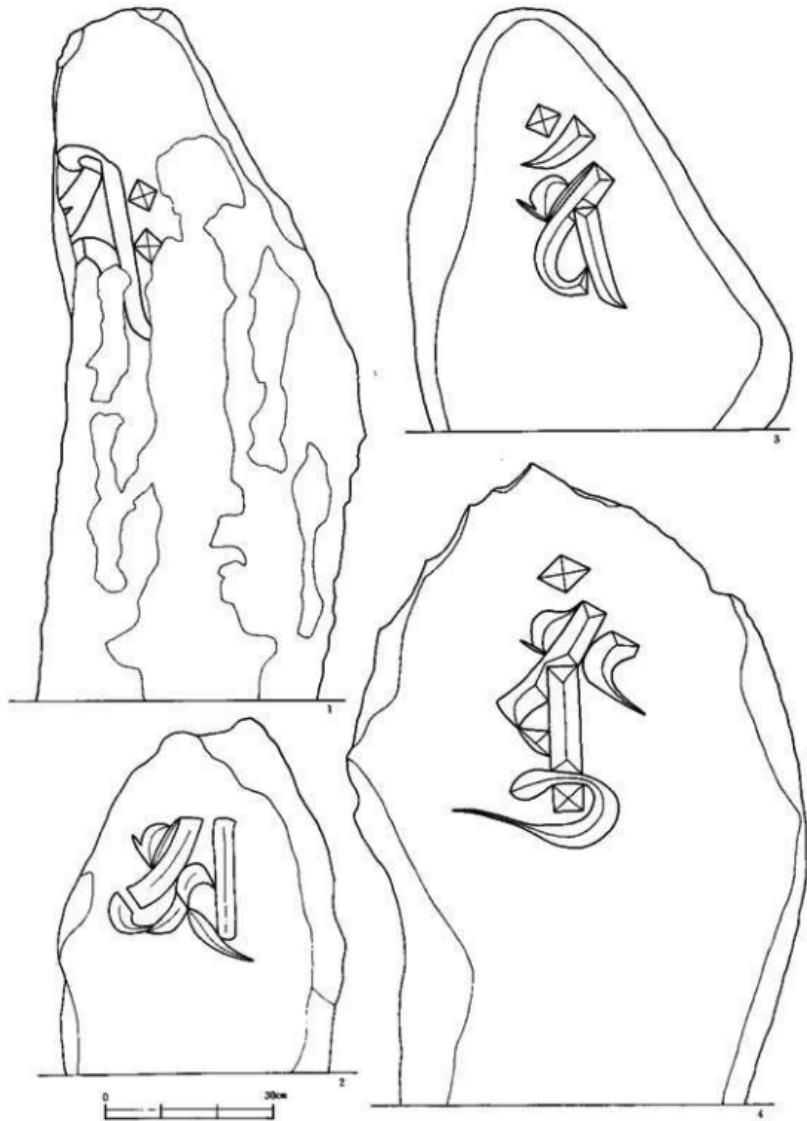
# 七北田川下流域板碑一覧表

番号	分布場所	在地	高さ	幅	厚さ	石材	題字	文	年代	備考	文献	実測図	写真
1	仙台市田字五平野 仙道筋1号線	地上63	51	14	安山岩	ア	4.7	0.4				第2四2	1
2	仙台市田字五平野 仙道筋2号線	地上75	69	34	安山岩	ア	4.4	0.7				第2四3	2
3	仙台市豊里1丁目20 豊河筋筋内	地上113	52	21	安山岩	ヰ-ヲ-フ	3.7	0.3				第2四1	3・4
4	仙台市豊里町2丁目19 豊河筋筋内	地上120	99	28	安山岩	ア	5.2	0.6	弘化九年(1852)二月 月桂	1226	裏面に通志あり	第3四5	5・6
5	仙台市宮字鶴崎 鶴野神社境内	地上114	80	24	安山岩	バーチ	3.6	0.5		裏面に通志あり	8	第2四4	7
6	仙台市宮字久保野 久保野神社境内	地上100	60	51	砂岩	アーチ	3.5	0.4	弘化二年八月十四日	1303		第3四2	8
7	仙台市田字寺前 寺前1丁目	69	65	18	砂岩	ア	2.9	0.3				第3四1	9
8	仙台市田字今泉 今泉2号線	地上90	37	13	砂岩	ヰ	5.8	0.9				第4四1	10
9	仙台市田字寺前 寺前3号線	地上83	34	15	砂岩	ア	3.5	0.6				第4四2	11
10	多賀城小野町西野4-4 不動王室1号線	地上83	35	34	安山岩	ヰリ-フ	4.2	0.6	文政期(大正時代後)	1317	カタガ内に文字あり	第4四3	12
11	多賀城小野町西野4-4 不動王室2号線	地上69	84	42	砂岩	ヰリ-フ	2.6	0.6				第4四4	13
12	多賀城小野町北野寺 七北田川底筋	地上114 (170)	93	52	安山岩	ヰリ-フ	7.0	1.1	文政元年九月十七日	1319	「白石の碑」と呼ばれる 裏面に通志あり	第6四1	14-17
13	多賀城小野町北野寺 七北田川底筋	地上153	125	56	安山岩	ア	9.5	1.3	正和元年八月十九日 三十六人	1312	立碑あり	第6四2	18-20
14	多賀城小野町北野寺 西野寺守護碑	地上70	82	65	安山岩	ア	5.4	0.8	嘉慶三年八月十六日	1310		第5四1	21・22
15	多賀城小野町北野寺 西野寺守護碑2号碑	地上82	56	28	安山岩	ア	3.0	0.5				第5四2	23
16	多賀城小野町北野寺 西野寺守護碑3号碑	地上84	58	23	安山岩	ヰリ-フ	3.2	0.4	光明禪院 十方堂 大正二年六月一日 立碑	1225	左側面に通志あり	第5四3	24
17	多賀城小野町北野寺 西野寺守護碑4号碑	地上78	37	31	安山岩	ヰリ-フ	3.5	0.6	永正六年八月 泰七番	1226	底部と左側面に通志	第7四1	25

18	25	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上79	62	22	米山岩	アリーフ	2.4	0.8	正和2年(1333)八月九日 正和2年(1333)八月九日	1312	+ 0 - 84.844±	8	第7回2	26
19	25	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上53	43	39	砂 岩	アリーフ	3.9	0.7	正和3年(1334)二月 正和3年(1334)二月	1350	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	8	第7回3	27-28
20	25	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上56	56	13	安山岩	ア	2.7	0.6	正和3年(1334)二月 正和3年(1334)二月	1350	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	8	第7回4	29
21	25	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上54	57	12	安山岩	アリーフ	2.7	0.2	正和3年(1334)二月 正和3年(1334)二月	1350	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	8	第7回4	30
22	26	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上53	48	21	花崗岩	バナ	2.6	0.4	正和3年(1334)七月 正和3年(1334)七月	1328	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	12	第8回2	31-33
23	27	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上54	69	30	砂 岩	ア	5.3	0.6			+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	8	第8回3	34
24	28	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上55	33	10	安山岩	カ	2.0	0.4			+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	8	第8回4	35
25	28	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上56	47	13	砂 岩	ア	3.2	0.6			+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	8	第9回4	36
26	29	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上55	27	15	安山岩	バナ	2.4	0.3			+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白	8	第9回5	37
27										四十八日(1335)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8 + 14 17 + 18	第9回2	38-40
28	29	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上59	74	14	安山岩	アシ	6.1	0.5	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第9回2	41
29	31	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上52	87	24	砂 岩	ア	4.5	0.5	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第10回1	42
30	31	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上50	126	36	安山岩	アシ	4.2	0.9	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第10回2	43-44
31	31	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上51	69	38	安山岩	ア	4.5	0.4	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第10回3	45-46
32	31	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上52	52	22	安山岩	ア	4.0	0.3	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第10回3	47
33	32	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上54	51	21	安山岩	バナ	2.8	0.2	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第11回1	48
34	33	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上56	121	29	安山岩	アシ	5.0	0.7	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第11回2	49
35	33	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上56	69	15	安山岩	アリーフ	3.4	0.6	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第11回3	50
36	33	多賀城山御用田所御用田所御用田所 御用田所御用田所御用田所	地上54	20	16	安山岩	カシ	1.7	0.4	正和3年(1334)八月 水二年(1336)八月 三十五人衆白	1324	+ キリーカルクス岩手 西十二人衆白 三十五人衆白	8	第11回2	51

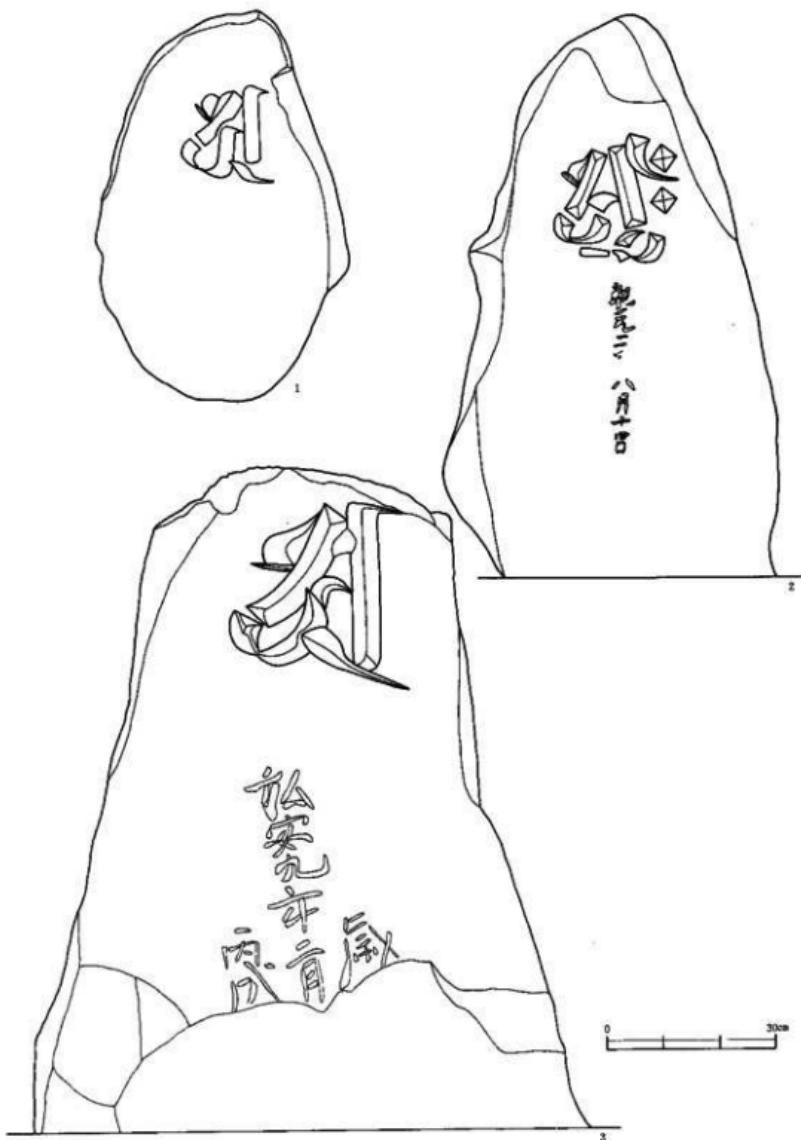






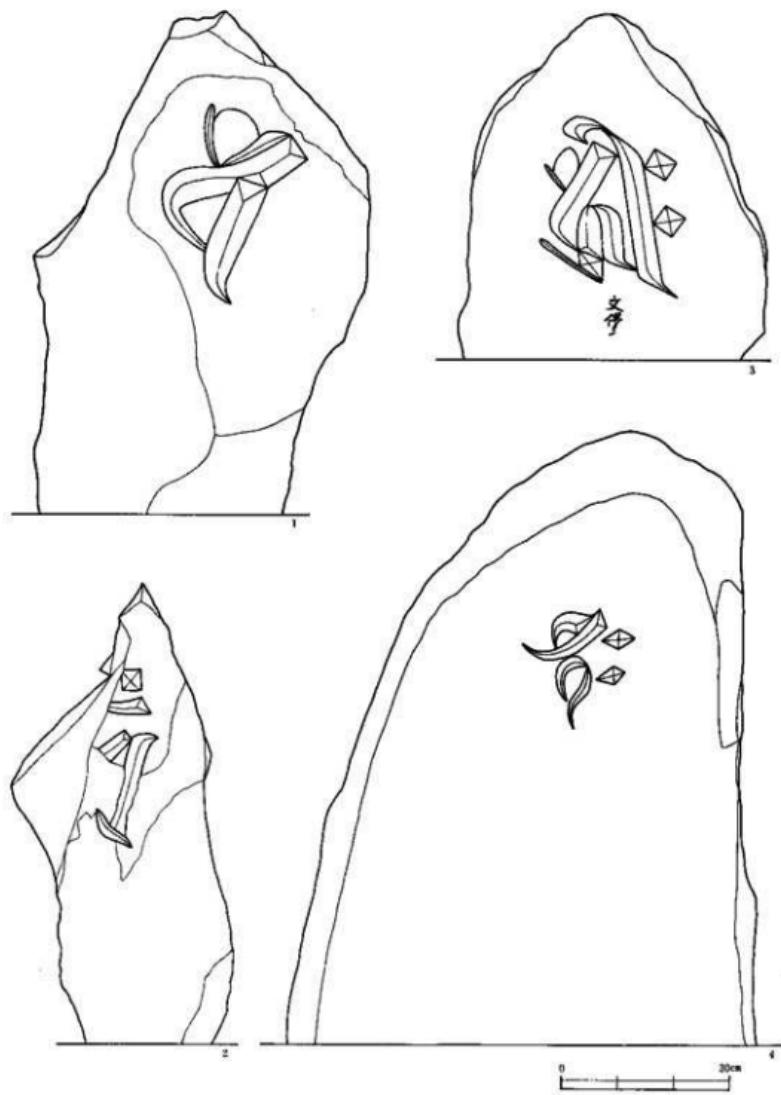
1. 仙台市瑞田町‘丁目10-20’ 霊洞院境内(写真-3) 2. 同 田子字五平洞通道路1号碑(写真-1)  
3. 同 2号碑(写真-2) 4. 同 福空字鶴巣・番1番地 離野神社境内(写真-7)

第2図 板碑実測図(1)



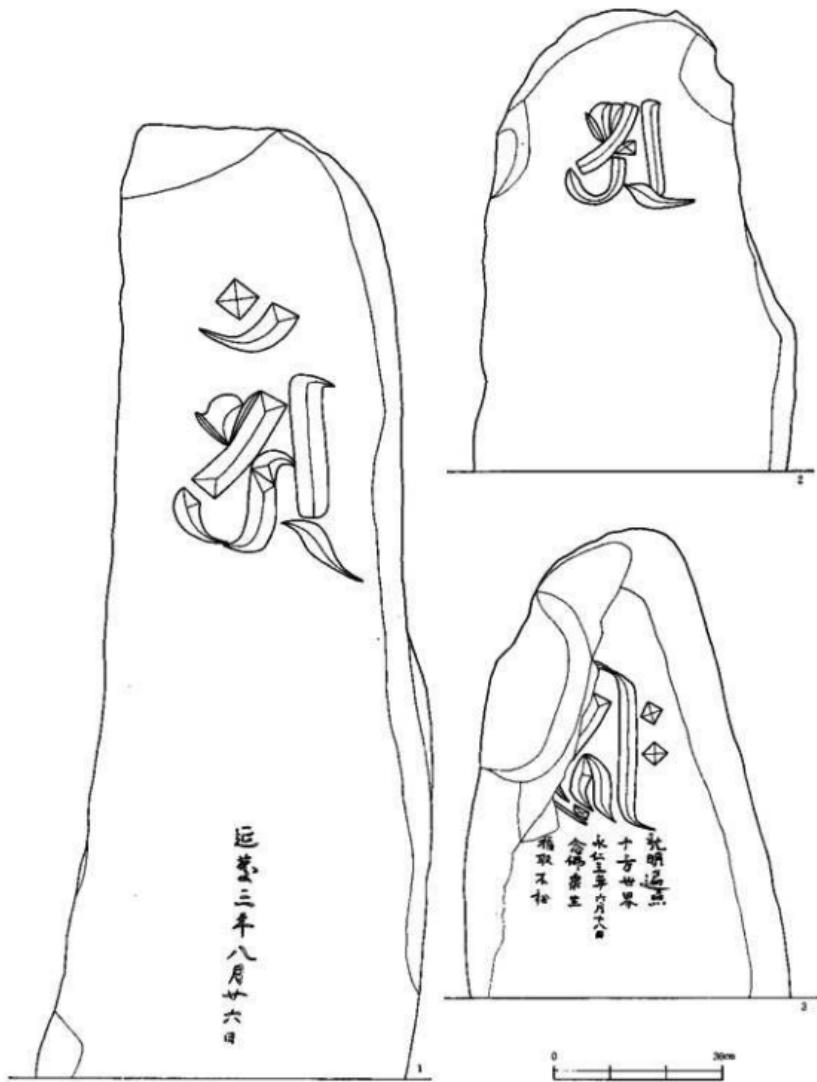
1. 仙台市同田字寺袋浦 神明社1号碑(写真-2)  
2. 同 福室字久保野一番72番地 住吉神社境内(写真-8)  
3. 同 福田町2丁目10-8 四野敷音堂境内(写真-5)

第3図 板碑実測図(2)



1. 仙台市南田字寺後浦、神明社2号碑(写真-10)  
3. 多賀城市新山字西後46-4 不動明王坐像碑(写真-12)  
2. 同 3号碑(写真-11)  
4. 同 2号碑(写真-13)

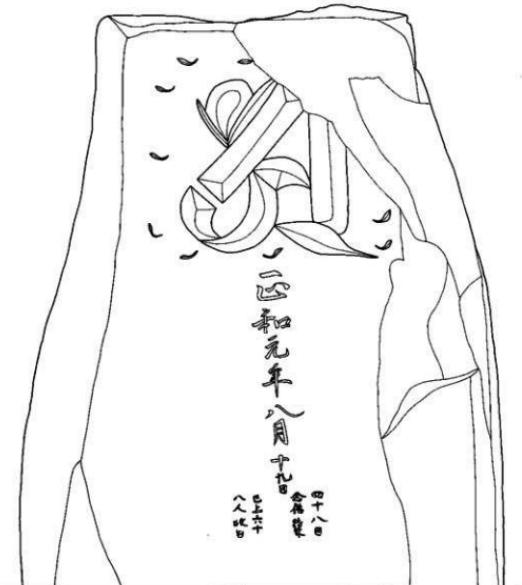
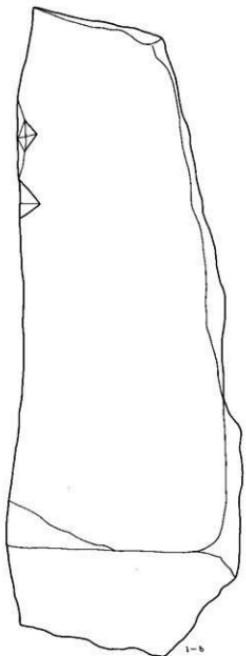
第4図 板碑実測図(3)



1. 多賀波市新田宇南安樂寺46番地南安樂寺板碑群 1号碑(写真-21) 2. 同 2号碑(写真-23) 3. 同 3号碑(写真-24)

第5図 板碑実測図(4)

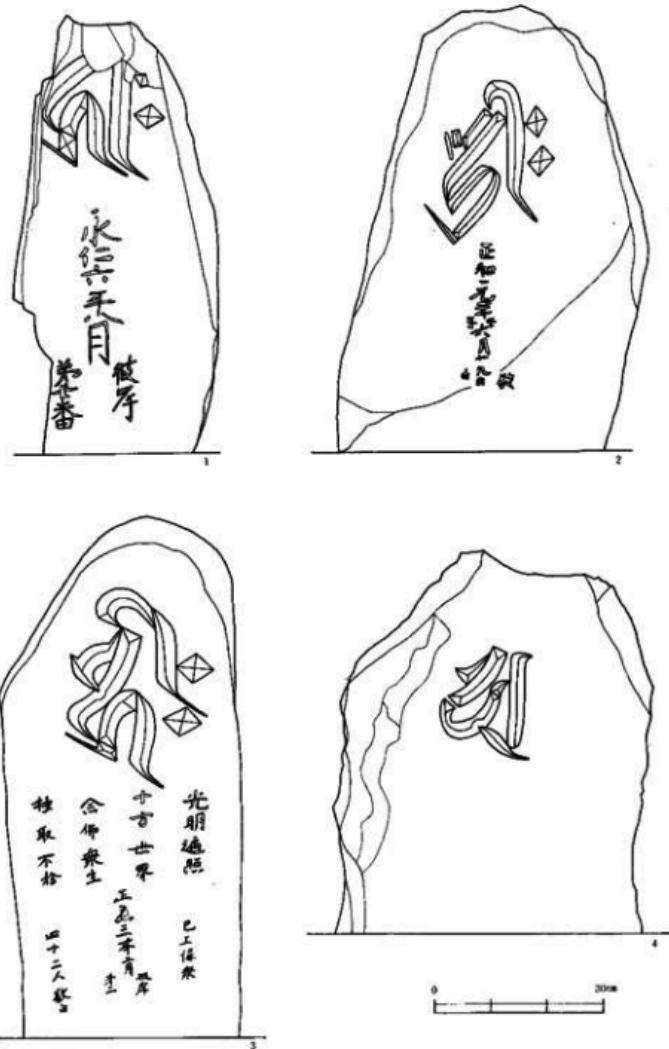




0 30cm

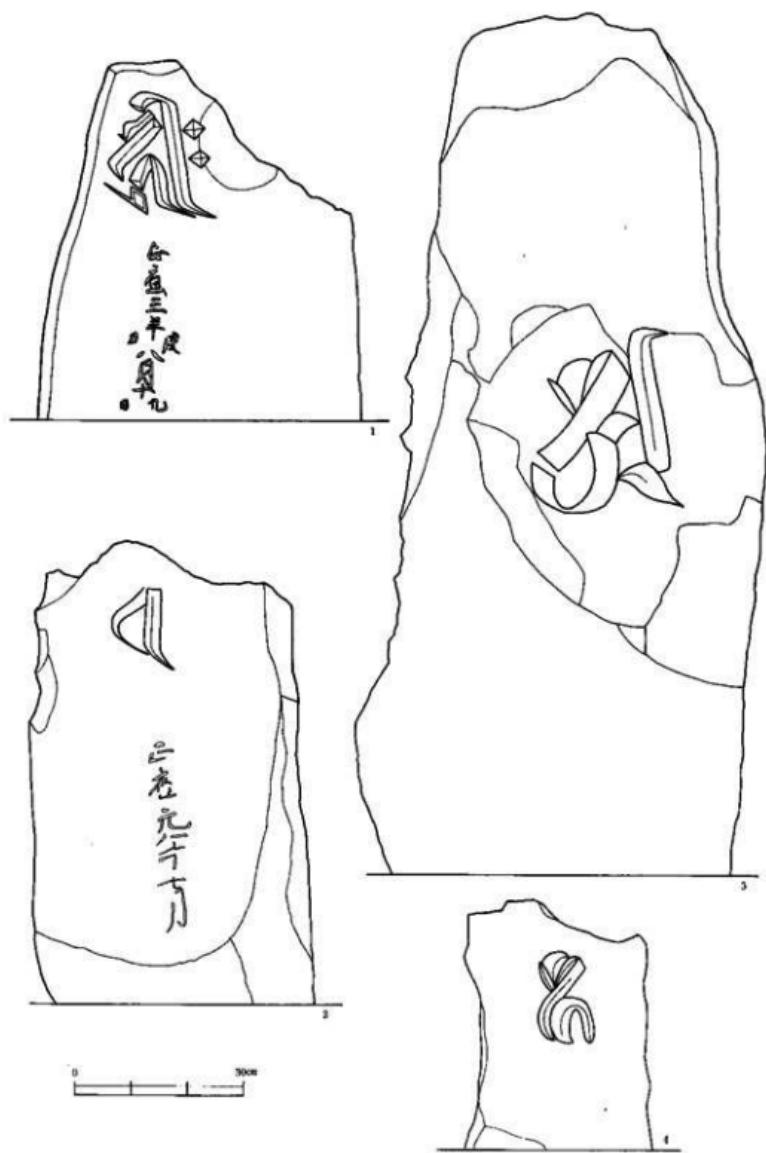
1-a, b. 多賀城下板山町立石川口町守「立石の碑」(写真一'4)  
2. 同上(写真一'5)

第6図 板碑実測図(5)



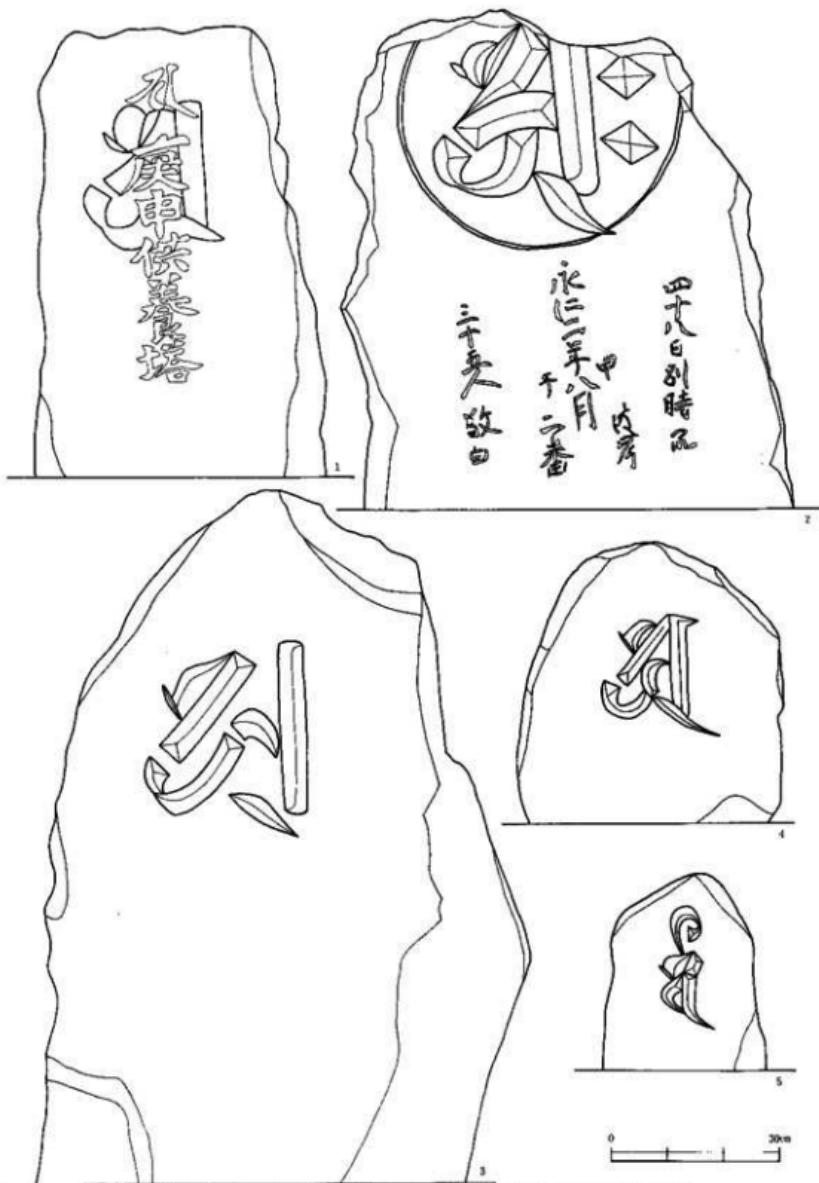
1. 多寶塔內新出字南安漢年46書地南安漢今板碑群 4號碑(寫真-25)  
3. 同 5號碑(寫真-27)

第7圖 板碑實測圖(6)



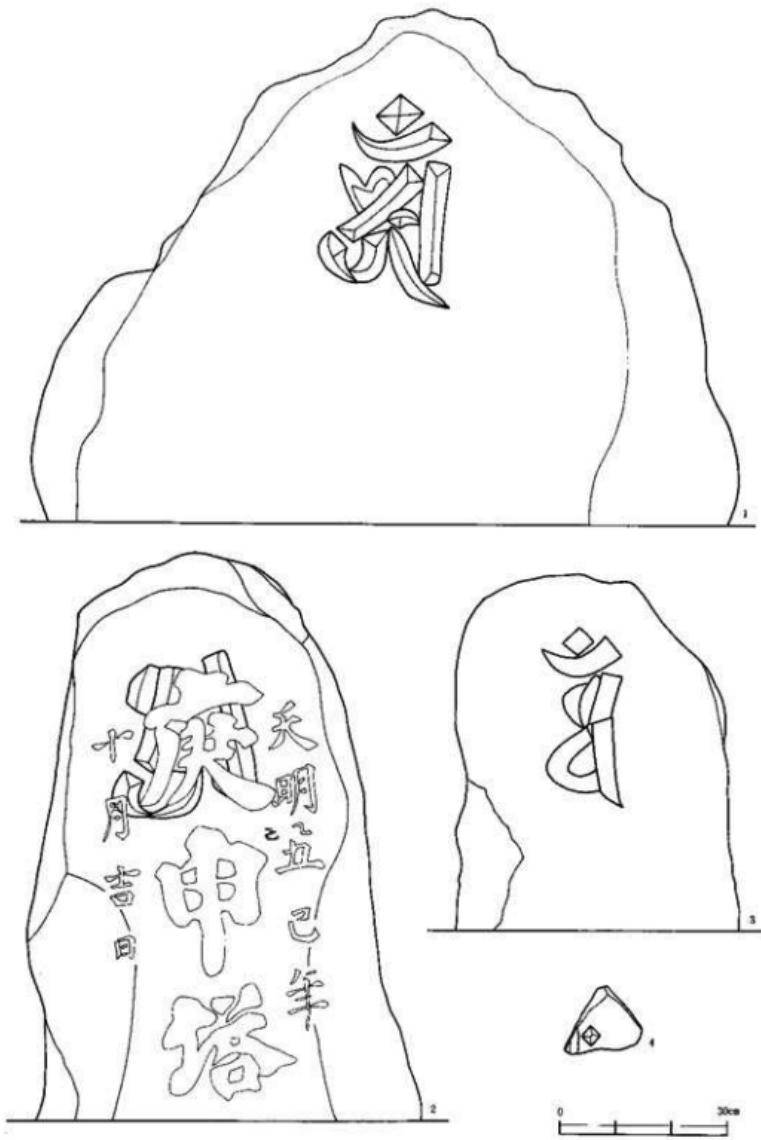
1. 多寶塔城市新田子南安樂寺46番地南安樂寺板碑群 8号碑(写真-30)  
 2. 同 3. 同  
 3. 同 新田子南開合23-1 滅没碑 氏碑(写真-34)

第8図 板碑実測図(7)



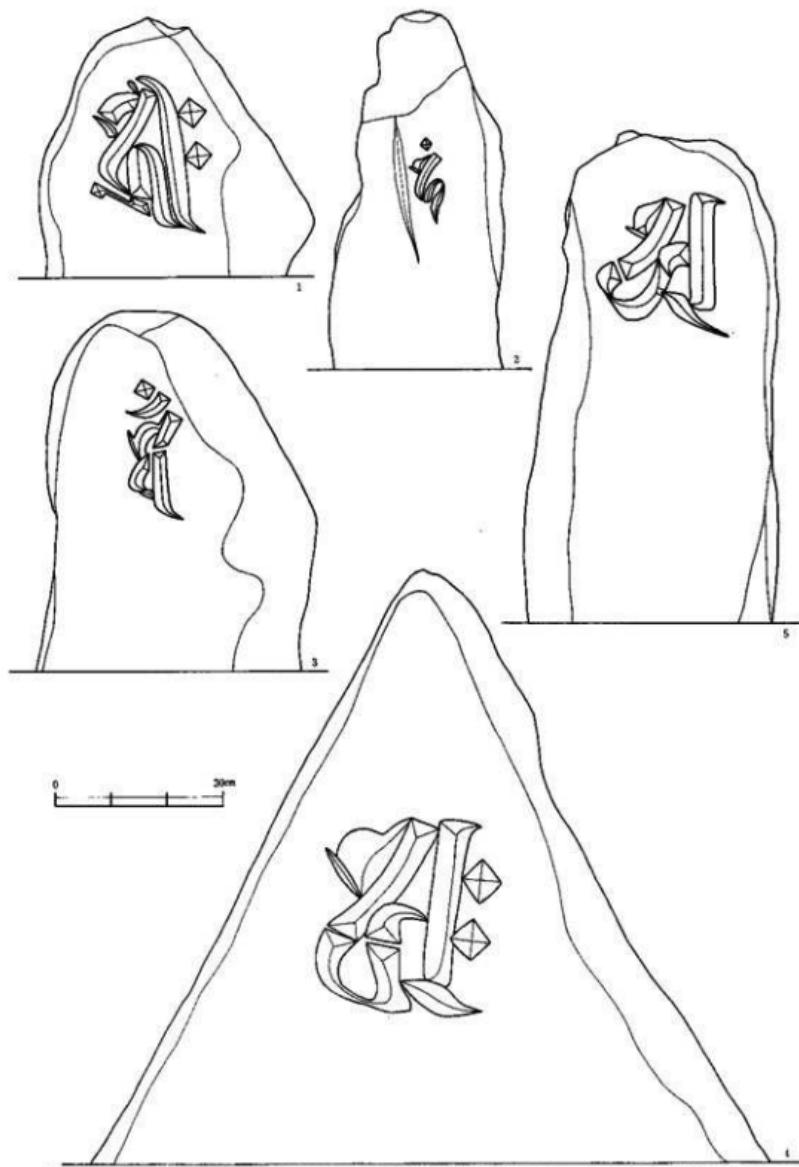
1. 多賀坡市山王宇喜司通3-5 日生神社3号碑(写真-45) 2. 同 西出字町13番地 絹雲寺1号碑(写真-38)  
3. 同 鹿之寺2号碑(写真-41) 4. 同 萩田字新開台33-1 冠川神社2号碑(写真-36)  
5. 同 南吉字色の地107番地 痘宮神社(写真-37)

第9図 板碑実測図(8)



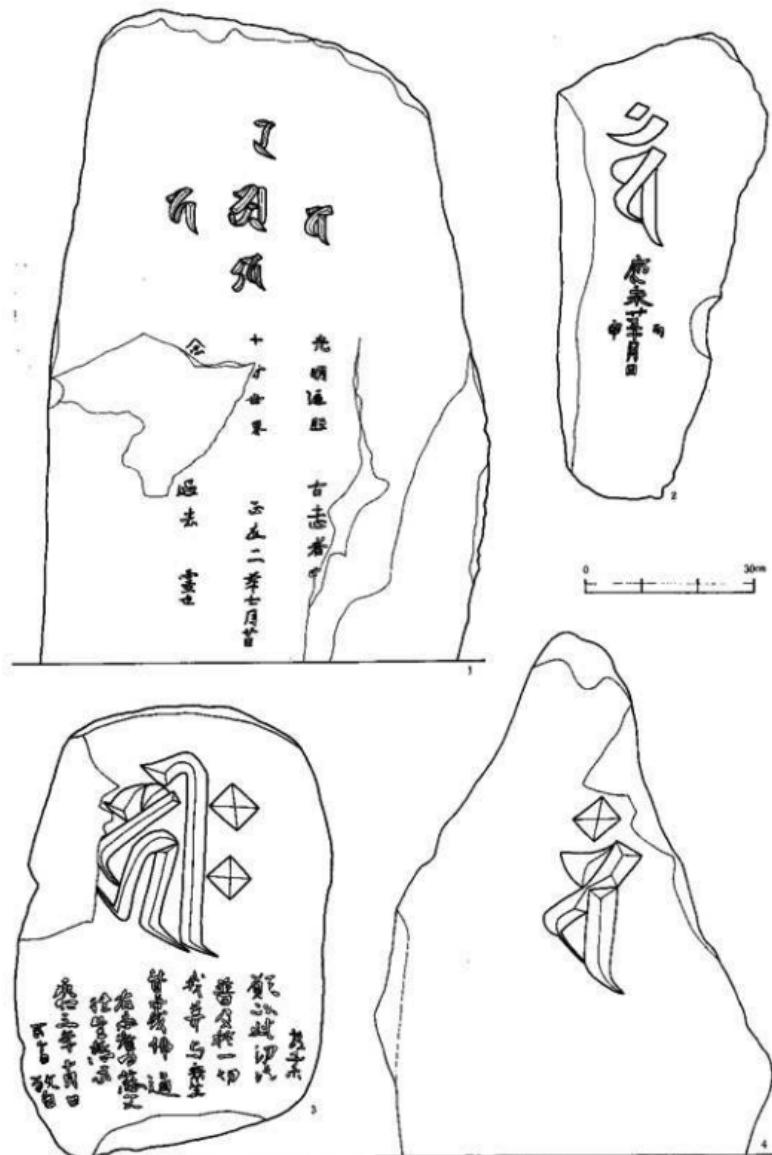
1. 多賀城市山王字東町(高)1-5 日吉神社1号碑(写真-42) 2. 同 日吉神社2号碑(写真-43)  
3. 同 日吉神社4号碑(写真-47) 4. 同 山王字山王一区163-1 山王遺跡出土(写真-48)

第10図 板碑実測図(9)



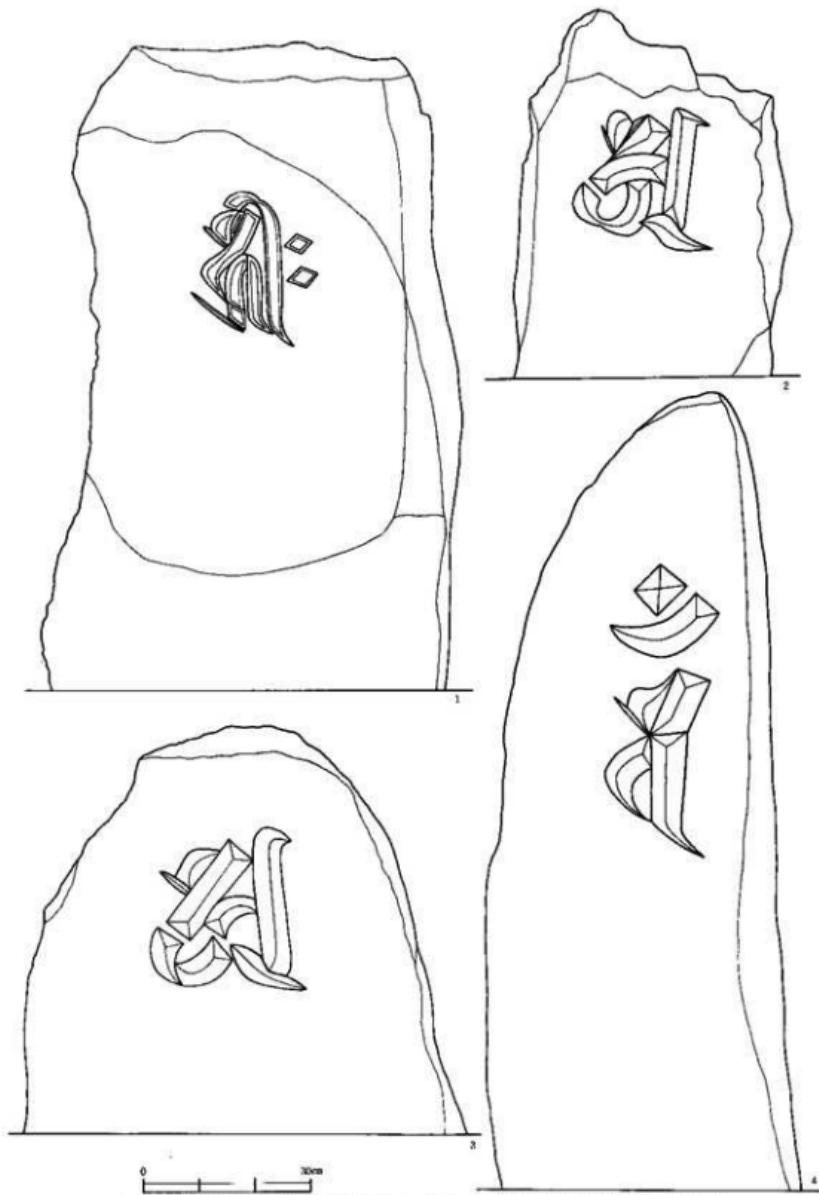
1. 多賀城市高字吳向121番地 大日堂神社2号碑(写真-48) 2. 同 大日堂神社3号碑(写真-50) 3. 同 大日堂神社4号碑(写真-52)  
4. 同 大日堂神社1号碑(写真-49) 5. 仙台市福室字新堀東70番地 西光寺1号碑(写真-53)

第11図 板碑実測図①



1. 仙台市福室字新造第70番地 西光寺2号碑(写真-54) 2. 同 中野宇阿野2号碑(写真-55)  
3. 同 中野宇出花西 安若神社1号碑(写真-56) 4. 同 安若神社2号碑(写真-57)

第12図 板碑実測図(1)



1. 仙台市福室字唐 1-3. 落城庄之進瓦右南側(写真-51)  
3. 同 愛宕神社4号碑(写真-65)

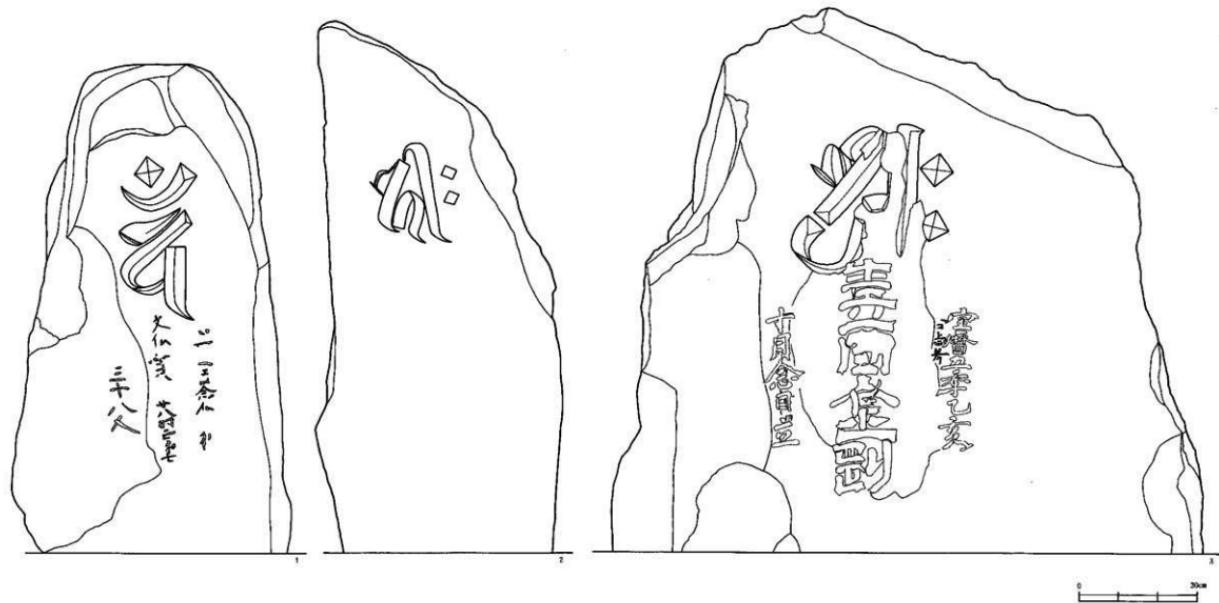
2. 同 中野寺出花西 愛宕神社3号碑(写真-82)  
4. 同 愛宕神社5号碑(写真-84)

第13図 板碑実測図(2)



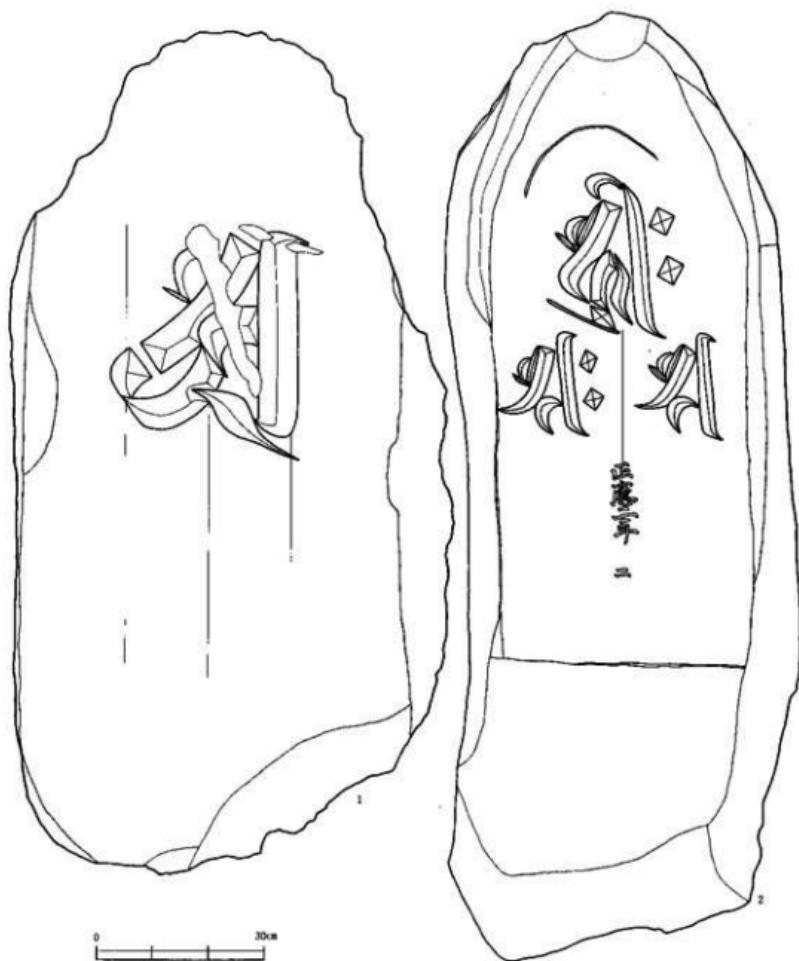
1. 佳台市中野庄造石38-5 面分秀一文字面(写真-68) 2. 四 中野庄竹花西 墓石碑16号碑(写真-68)  
3. 四 中野庄只里造石35-6 古源峰男宅1号碑(写真-68) 4. 四 古源峰男宅2号碑(写真-68)

第14图 板碑实测图19

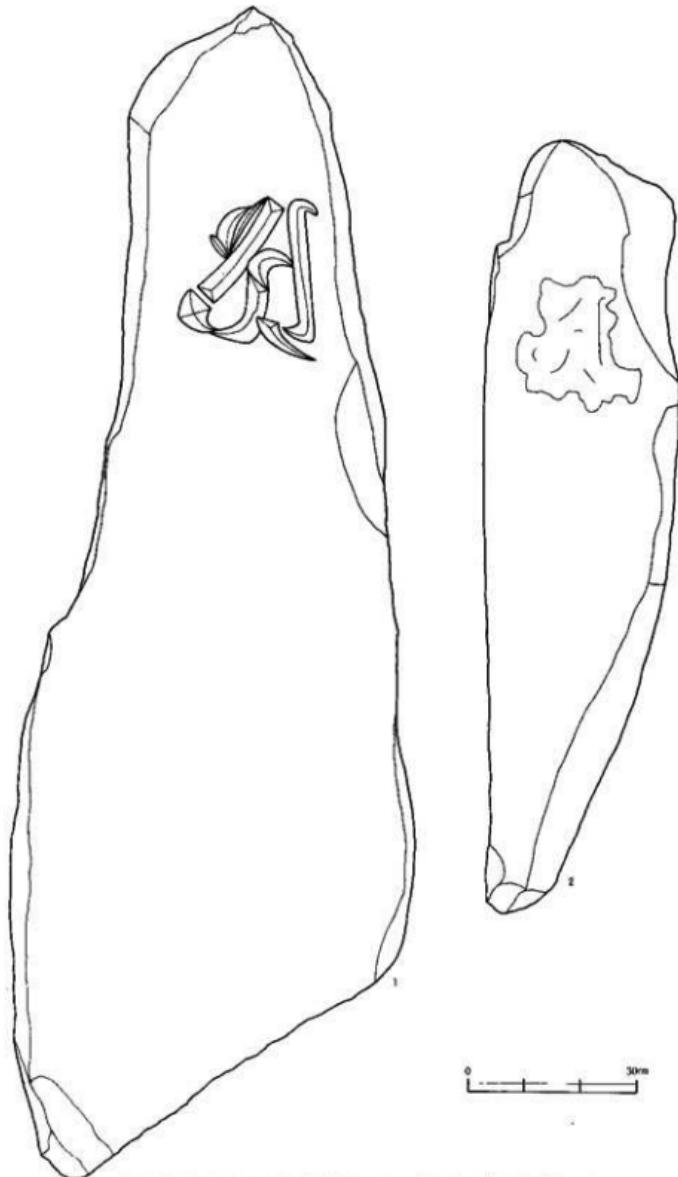


1. 仙台市中野字曲田跡地 加藤長松氏宅裏角(写真-60) 2. 同 中野字内田 八歳八幡神社境内(写真-71) 3. 同 藤生字竹ノ内 耳取殿跡地内(写真-12)

第15図 板碑実測図④

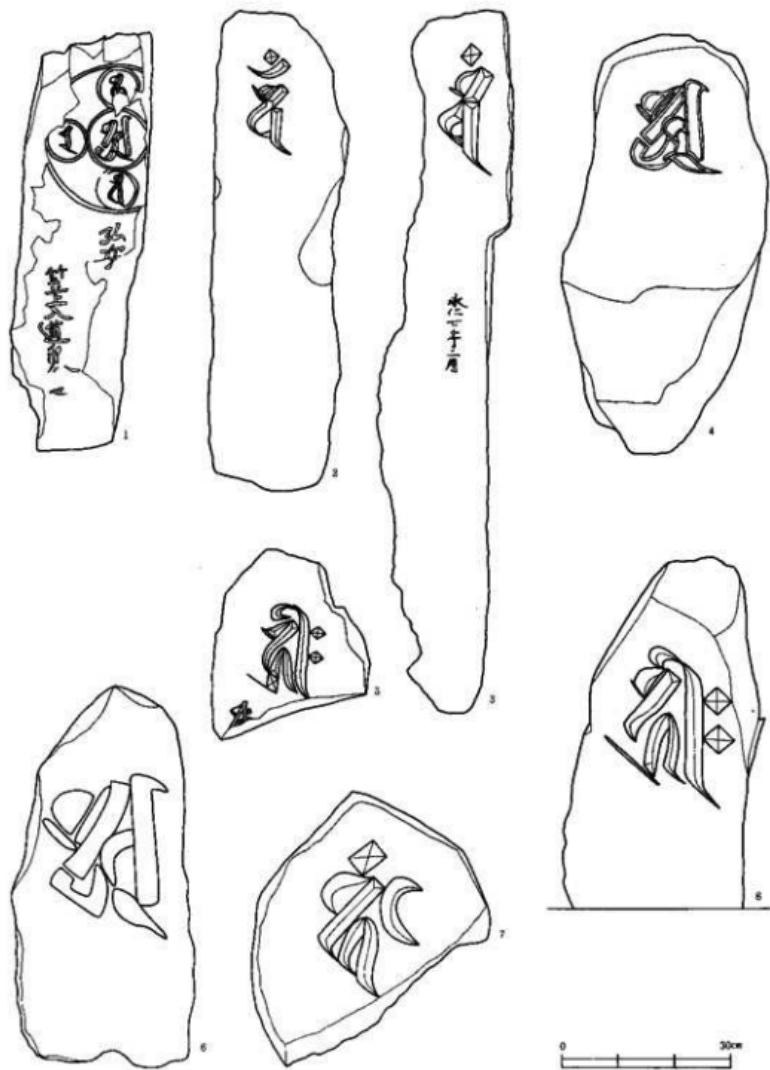


1. 仙台市若切字羽黒町126-4 森谷 茂氏宅前出土1号碑(写真-73) 2. 同 森谷 庄氏宅前出土2号碑(写真-76)  
第16図 板碑実測図(9)



1. 仙台市岩切字若宮前 志弘山墓地1号碑(写真-77) 2. 同 志弘山墓地2号碑(写真-79)

第17図 板碑実測図(1)



1. 仙台市者切字入山口一 佐藤喜徳氏宅 1号碑(平真-81)  
 2. 同 佐藤喜徳氏宅 2号碑(平真-85)  
 3. 同 佐藤喜徳氏宅 3号碑(平真-85)  
 4. 同 佐藤喜徳氏宅 4号碑(平真-85)  
 5. 同 田子字屋下10番地 伊藤益於家西北の大日神社境内1号碑(平真-80)  
 6. 同 中野字只屋敷 56番地 古河初男氏宅内(平真-92)  
 7. 同 大日神社境内2号碑(平真-91)

第18図 板碑実測図(1)



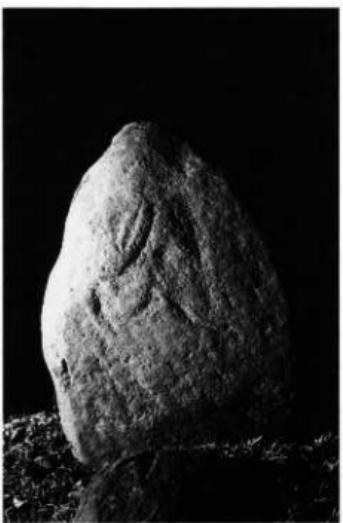


写真-1 仙台市田子字五平洞  
県道脇1号碑(第2図2)



写真-2 同 県道脇2号碑(第2図3)



写真-3 仙台市福田町1丁目10-20  
雲洞院境内(第2図1)

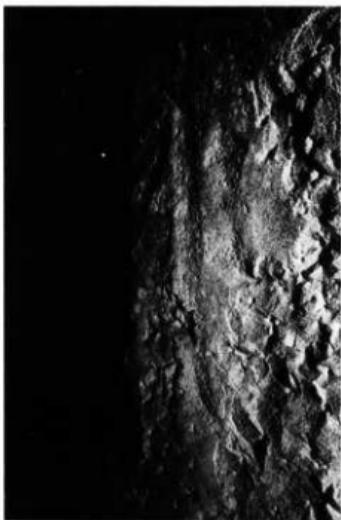


写真-4 同 種子部分



写真-5 仙台市福田町1丁目10-9  
四野観音堂境内（第3図3）



写真-6 同 紀年号部分



写真-7 仙台市福室字鶴巻一番1  
熊野神社（第2図4）



写真-8 仙台市福室字久保野一番72  
住吉神社境内（第3図2）



写真-9 同 神明社1号碑（第3図1）



写真-10 同 神明社2号碑（第4図1）



写真-11 同 神明社3号碑（第4図2）



写真-12 多賀城市新田字西後46-4  
不動明王堂1号碑（第4図3）

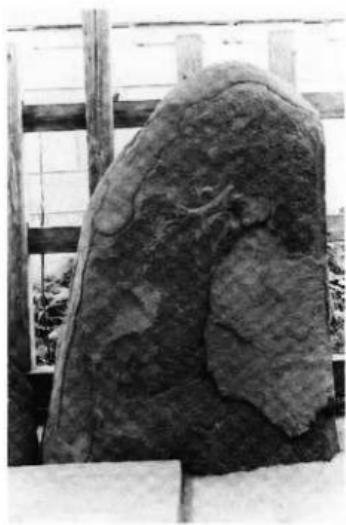


写真-13 多賀城市新田字西後46-4  
不動明王堂2号碑（第4図4）



写真-14 多賀城市新田字北安楽寺  
七北田川旧堤防「割石の碑」  
左側（第6図1）



写真-15 同 種子部分



写真-16 同 紀年号部分

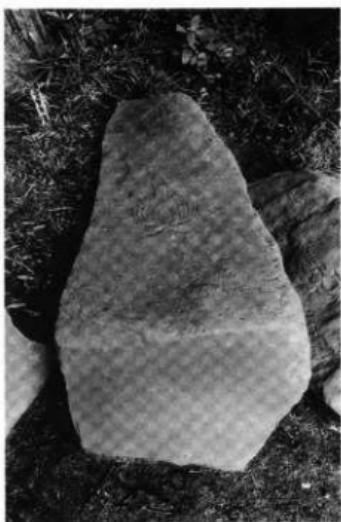


写真-17 多賀城市新田字北安楽寺  
七北田川旧堤防「割石の碑」右側



写真-18 多賀城市新田字北安楽寺  
七北田川新堤防（第6図2）



写真-19 同 種子部分



写真-20 同 紀年号部分



写真-21 多賀城市新田字南安楽寺46  
南安楽寺板碑群1号碑  
(第5図1)



写真-22 同 南安楽寺板碑群1号碑  
紀年号部分



写真-23 同 南安楽寺板碑群2号碑  
(第5図2)



写真-24 同 南安楽寺板碑群3号碑  
(第5図3)



写真-25 多賀城市新田字南安楽寺46  
南安楽寺板碑群4号碑  
(第7図1)



写真-26 同 南安楽寺板碑群5号碑  
(第7図2)



写真-27 同 南安楽寺板碑群6号碑  
(第7図3)



写真-28 同 南安楽寺板碑群6号碑銘文



写真-29 多賀城市新田字南安楽寺46  
南安楽寺板碑群7号碑  
(第7図4)

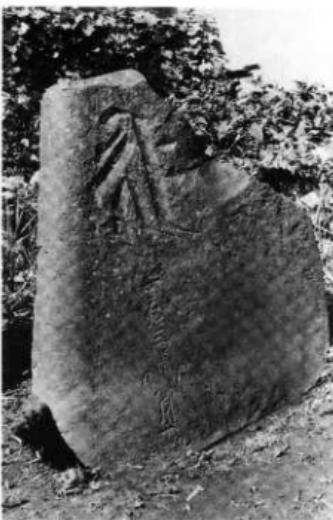


写真-30 同 南安楽寺板碑群8号碑  
(第8図1)



写真-31 多賀城市新田字南安楽寺97  
阿弥陀堂 (第8図2)



写真-32 同 種子部分



写真-33 多賀城市新田字南安樂寺97  
阿弥陀堂紀年号部分



写真-34 多賀城市新田字南閑合23-1  
渡辺義一氏宅 (第8図3)



写真-35 多賀城市新田字南閑合33-1  
冠川神社1号碑 (第8図4)



写真-36 同 冠川神社2号碑 (第9図4)



写真-37 多賀城市南宮字色の地197  
南宮神社（第9図5）



写真-38 多賀城市南宮字町13  
慈雲寺1号碑（第9図2）



写真-39 同 慈雲寺1号碑紀年号部分



写真-40 同 慈雲寺1号碑銘文



写真-41 多賀城市南宮字町13  
慈雲寺2号碑(第9図3)



写真-42 多賀城市山王字東町浦31-5  
日吉神社1号碑(第10図1)



写真-43 同 日吉神社2号碑(第10図2)



写真-44 同 日吉神社2号碑種子部分



写真-45 多賀城市山王字東町浦31-5  
日吉神社3号碑（第9図1）



写真-46 同 日吉神社3号碑種子部分



写真-47 同 日吉神社4号碑（第10図3）

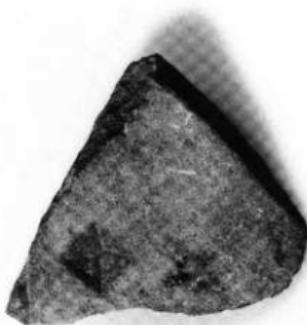


写真-48 多賀城市山王字山王二区183-1  
山王遺跡出土（第10図4）



写真-49 多賀城市高橋字発向121  
大日靈神社1号碑(第11図4)



写真-50 同 大日靈神社2号碑(第11図1)



写真-51 同 大日靈神社3号碑(第11図2)



写真-52 同 大日靈神社4号碑(第11図3)



写真-53 仙台市福室字新堀東70  
西光寺1号碑（第11図5）



写真-54 同 西光寺2号碑（第12図1）



写真-55 同 西光寺2号碑種子部分



写真-56 同 西光寺2号碑紀年号部分



写真-57 仙台市福室字庚1-3  
結城庄之進氏宅南側(第13図1)



写真-58 仙台市中野字阿弥陀堂37  
誓度寺(第12図2)



写真-59 仙台市中野字出花西  
愛宕神社1号碑(第12図3)



写真-60 同 愛宕神社1号碑紀年号部分



写真-61 仙台市中野字出花西  
愛宕神社 2号碑（第13図4）



写真-62 同 愛宕神社 3号碑（第13図2）



写真-63 同 愛宕神社 4号碑（第13図3）



写真-64 同 愛宕神社 5号碑（第13図4）



写真-65 仙台市中野字出花西  
愛宕神社 6号碑(第14図2)



写真-66 仙台市中野字只屋敷55-5  
古澤輝男氏宅 1号碑(第14図3)

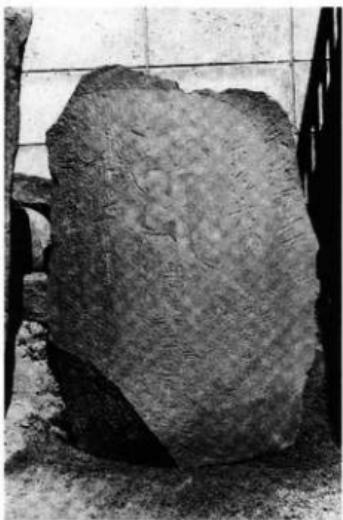


写真-67 同 古澤輝男氏宅 2号碑  
(第14図4)



写真-68 仙台市中野字高柳38-5  
国分秀一氏宅の西北(第14図1)



写真-69 仙台市中野字曲田56  
加藤長松氏宅の東側(第15図1)



写真-70 同 銘文部分



写真-71 仙台市中野字向田  
八銀八幡神社(第15図2)



写真-72 仙台市蒲生字竹ノ内  
耳取觀音(第15図3)



写真-73 仙台市岩切字羽黒前126-4  
森谷 茂氏宅前出土1号碑  
(第16図1)



写真-74 同 森谷 茂氏宅前出土2号碑  
(第16図2)



写真-75 同 種子部分



写真-76 同 紀年号部分

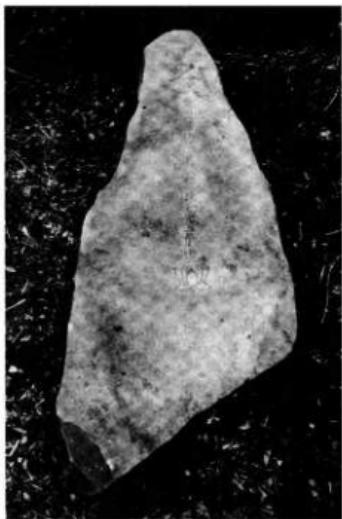


写真-77 仙台市岩切字若宮前  
念仏田墓地1号碑(第17図1)



写真-78 同 1号碑種子部分



写真-79 同 念仏田墓地2号碑(第17図2)



写真-80 同 2号碑種子部分



写真-81 仙台市岩切字入山27-1  
佐藤喜信氏宅1号碑(第18図1)



写真-82 同 1号碑種子部分



写真-83 同 1号碑銘文部分



写真-84 同 1号碑銘文「笠上入道」



写真-85 仙台市岩切字入山27-1  
佐藤喜信氏宅2号碑(第18図2)

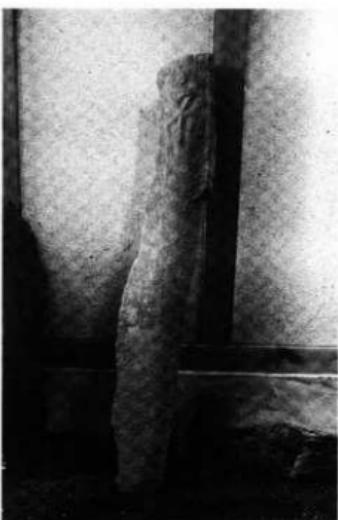


写真-86 同 3号碑(第18図3)



写真-87 同 3号碑紀年号部分



写真-88 同 4号碑(第18図4)



写真-89 仙台市岩切字入山27-1  
佐藤喜信氏宅 5号碑(第18図5)



写真-90 仙台市田子字堤下10番地  
伊藤音松氏宅西北  
大日神社 1号碑(第18図6)



写真-91 大日神社 2号碑(第18図7)



写真-92 仙台市中野字只屋敷156番地  
古沢初男氏宅内(第18図8)

---

仙台市文化財調査報告書第121集

仙台市文化財分布調査報告 VI  
七北田川下流域の板碑

昭和 63 年 3 月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会  
仙台市国分町 3-7-1  
仙台市教育委員会社会教育課

印刷 株式会社 共 新 精 版 印 刷  
仙台市日の出町 2-4-2  
TEL 236-7181

---

## 七北田川下流の板碑分布図

1	仙台市岩切字入山22	東光寺境内	80基
2	仙台市岩切字入山27-1	佐藤喜信氏宅	5基
3	仙台市岩切字入山33	地蔵堂境内	2基
4	仙台市岩切字若宮前52	念佛寺境内	2基
5	仙台市岩切字羽黒前126-4	森谷茂氏宅前出土	1基
6	仙台市岩切字羽黒前65	池田正氏宅	4基
7	仙台市岩切字羽黒前70	高橋美千氏宅東側	3基
8	仙台市岩切字羽黒前2-6	足立正雄氏宅前	3基
9	仙台市岩切字觀音前17	羽黒権前	3基
10	仙台市岩切字洞ノ口103	田代毅氏宅	4基
11	仙台市岩切字三所北48	加藤友氏宅	1基
12	仙台市岩切字三所北87-1	関根氏所有の煙地	1基
13	仙台市岩切字今市93	みやぎ生協入口	1基
14	仙台市田子字五平瀬	耕田寺境内	1基
15	仙台市田子字五平瀬	県道脇	2基
16	仙台市田子字堰下	大日神社境内	2基
17	仙台市福田町1丁目10-20	雲洞院境内	1基
18	仙台市福田町2丁目10-9	四野觀音堂境内	1基
19	仙台市福室字鶴巻一番1	熊野神社境内	1基
20	仙台市福室字久保野一番72	住吉神社境内	1基
21	仙台市岡田字寺袋浦	神明社境内	3基
22	多賀城市新田字西後46-4	不動明王堂境内	2基
23	多賀城市新田字北安楽寺	七北田川旧堤防	1基
24	多賀城市新田字北安楽寺	七北田川新堤防	1基
25	多賀城市新田字南安楽寺46	南安楽寺板碑群	8基
26	多賀城市新田字南安楽寺97	阿苏陀堂境内	1基
27	多賀城市新田字南閣合23-1	渡辺義一宅	1基
28	多賀城市新田字南閣合33-1	冠川神社境内	2基
29	多賀城市南宮字地197	南宮神社境内	1基
30	多賀城市南宮字町13	慈雲寺境内	2基
31	多賀城市王字東町裏31-5	日吉神社境内	4基
32	多賀城市王字山王二区183-1	山王遺跡出土	1基
33	多賀城市高橋字発向121	大日靈神社境内	4基
34	仙台市福室字新堀東70	西光寺境内	2基
35	仙台市福室字庚1-3	結城庄之進氏宅南	1基
36	仙台市中野字阿弥陀堂37	誓渡寺境内	1基
37	仙台市中野字出花西	愛宕神社境内	6基
38	仙台市中野字只屋敷55-5	古澤綱氏宅	2基
39	仙台市中野字只屋敷156	古沢初男氏宅	1基
40	仙台市中野字高柳38-5	国分秀一氏宅西北	1基
41	仙台市中野字曲田56	加藤長松氏宅東角	1基
42	仙台市中野字向田	八鍬八幡神社境内	1基
43	仙台市蒲生字竹ノ内	耳取觀音境内	1基

